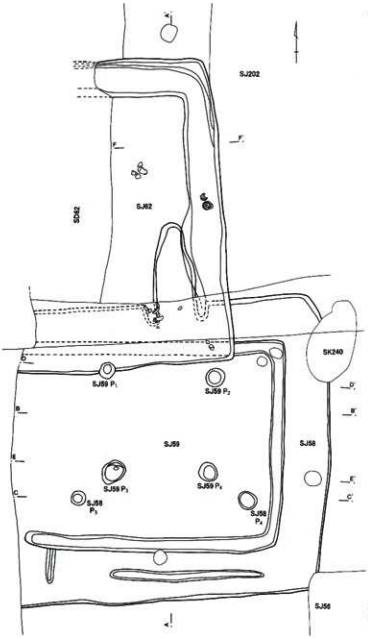
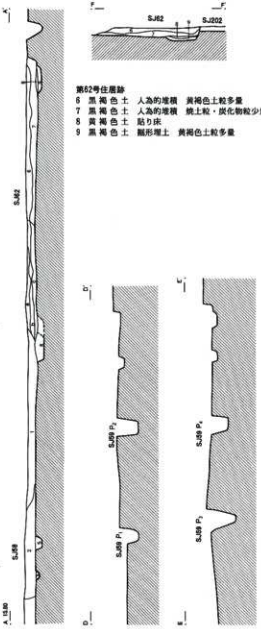
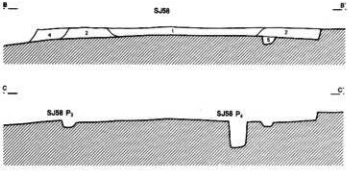
第127図　F区第58・59・62号住居跡





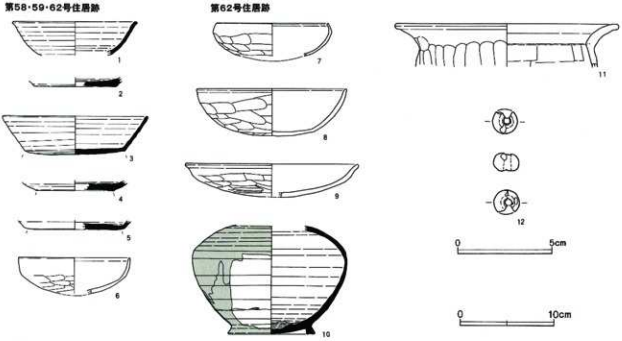
第62号住居跡
6　黒褐色土　人為的堆積　黄褐色土粒多量
7　黒褐色土　人為的堆積　焼土粒・炭化物粒少量
8　黄褐色土　貼り床
9　黒褐色土　鍋形埋土　黄褐色土粒多量



第58・59・62号住居跡
第58号住居跡
1　黒褐色土　黄褐色土ブロック(10～13mm大)・焼土ブロック(10mm弱)多量
2　黒褐色土　焼土ブロック(10mm弱)少量　黄褐色土粒多量
3　黒褐色土　黄褐色土粒多量
4　黒褐色土　焼土粒少量
第58号住居跡カマド
a　暗黄褐色土　天井部の崩落
b　暗茶褐色土　流入土　焼土粒子・ブロック多量
c　黒褐色土　流入土　焼土粒・炭化物粒多量
第59号住居跡
5　褐灰色土　焼土粒少量　黄褐色土粒極多量

0　2m

第128図　F区第58・59・62号住居跡出土遺物



F区第58・59・62号住居跡出土遺物観察表（第128図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	(13.0)	(3.6)		B針	B	灰	5	SJ58・59・62 南北企産
2	坏		(1.0)	(8.6)	WB針	B	オリーブ灰	5	SJ58・59・62 南北企産 底部糸切離し
3	坏	15.5	4.1	10.6	WBR針	A	黄灰	50	SJ58・59・62 南北企産 底部全面ヘラ
4	坏		(1.1)	(8.2)	W針	B	灰	5	SJ58・59・62 南北企産 底部全面ヘラ
5	椀		(0.9)	(10.0)	WB針	B	灰	5	SJ58・59・62 南北企産 底部全面ヘラ
6	坏	(11.8)	(3.8)		WB	B	橙	20	SJ58・59・62
7	坏	(11.8)	(3.5)		BR	B	にぶい黄橙	20	SJ62
8	椀	15.8	5.0		BR	B	橙	70	SJ62
9	盤	(18.0)	(3.5)		WBR	B	橙	25	SJ62 №2
10	長頸壺		(12.5)	9.1	WB	B	灰	60	SJ62 №3　湖西産　自然釉付着
11	甕	(23.2)	(4.5)		WBR	C	にぶい橙	5	SJ62 カマドNo.4
12	ガラス小玉								SJ62 №4　径1.3×厚さ0.85×重さ1.30g

第59号住居跡の平面形態は長方形で、規模は南北長3.30m×深さ0.12m、南北軸方位N－0°－Eを測る。柱穴は4本である。壁溝はほぼ全周するものと推測され、幅0.24m、深さ0.05～0.10mほどである。カマド・貯蔵穴は確認されていない。遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第62号住居跡の平面形態は方形で、規模は南北長4.88m×深さ0.13m、南北軸方位N－5°－Wを測る。壁溝はほぼ全周するものと推測され、幅0.55m、深さ0.07mほどである。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、須恵器蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

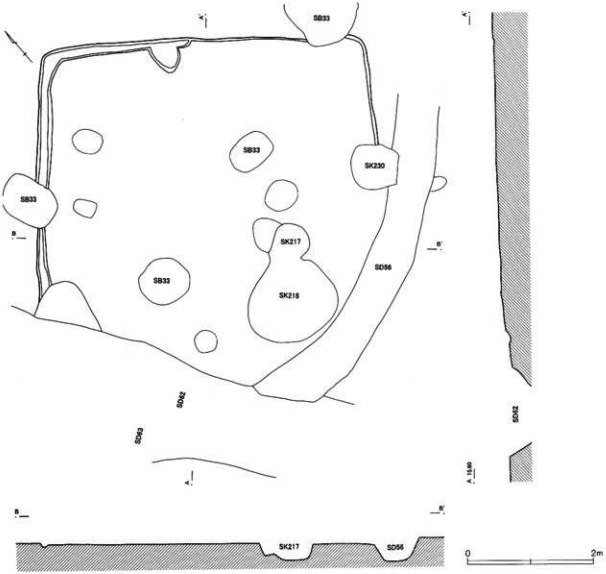
第60号住居跡（第129・48図）

BC36、BD36グリッドに位置する。第230号土壙、第56号溝跡と重複し、第33号掘立柱建物跡、第217・218号土壙よりも古い。また住居跡南東コーナーから南西コーナーにかけては第62号溝跡に攪乱されている。

平面形態は方形で、規模は東西長幅5.42m、主軸方位N－44°－Eを測る。確認段階で既に床面が消失し、掘形には黄褐色土粒を多く含む暗褐色土が埋め戻されている。

壁溝は北壁中央～西壁に巡り、幅0.08～0.16m、深さ0.06mほどである。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

第129図　F区第60号住居跡



遺物は図示し得ないが、土師器甕・坏片が出土している。

第61・67号住居跡（第130・131・51図）

BD39・40、BE39グリッドに位置し、第206号井戸跡と重複する。第231・232号土壙よりも古く、第53号溝跡よりも新しい。第61号住居跡と第67号住居跡の新旧関係は不明である。

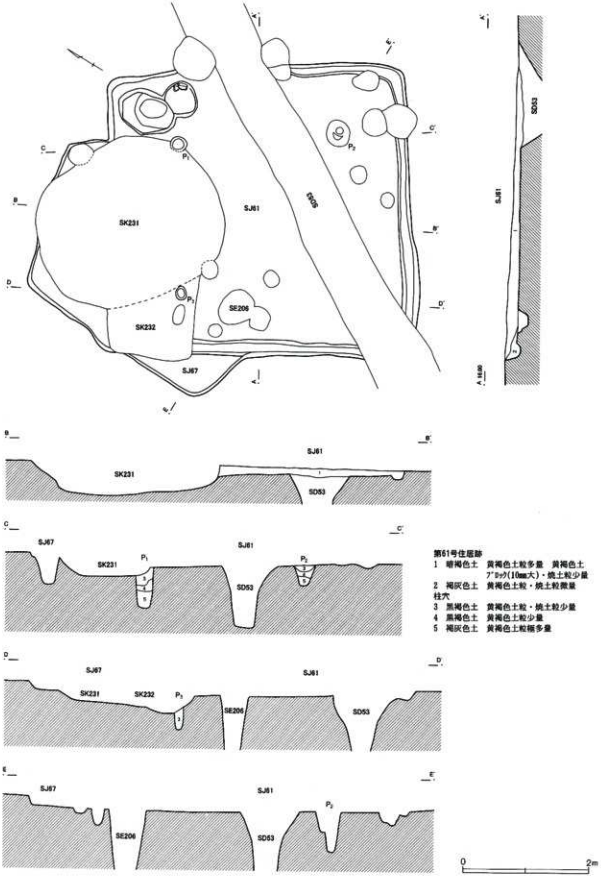
第61号住居跡の平面形態は方形で、規模は南北長4.75m×東西長4.59m×深さ0.17m、南北軸方位N—31°—Wを測る。検出された3本のピットは、いずれも柱穴と思われる。壁溝は西壁～南壁～東壁中央に巡り、幅0.17～0.28m、深さ0.13～0.24mほどである。カマド・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第67号住居跡の平面形態は方形であるが、第61号住居跡、第231・232号土壙との重複が著しく、規模は明確ではない。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示し得ないが、土師器甕・坏片が出土している。

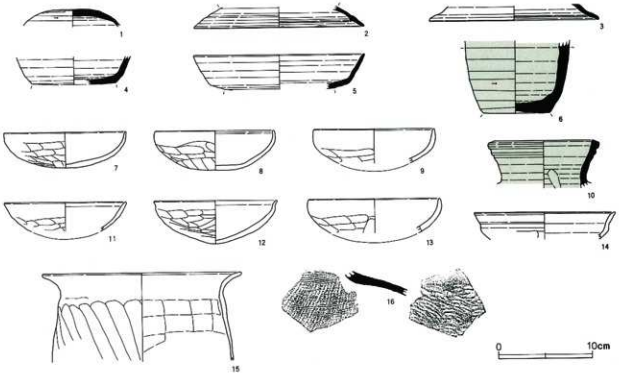
第63号住居跡（第132・49図）

BD38グリッドに位置し、第64号住居跡、第48号溝跡と重複する。第36号掘立柱建物跡よりも新しく、第37号掘立柱建物跡よりも古い。

第130図　F区第61・67号住居跡



第131図　F区第61号住居跡出土遺物



F区第61号住居跡出土遺物観察表（第131図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.9)		WB	A	灰	30	南比企産？ 内面擦痕
2	蓋	(18.1)	(2.2)		WB	A	灰	10	末野産
3	蓋	(18.0)	(2.1)		WB	A	灰	5	末野産
4	坏		(2.9)	(9.0)	WB片	A	灰黄	10	末野産 底部全面ヘラ
5	坏	(18.2)	(3.7)	(11.6)	WBR	B	灰白	25	末野産？
6	長頸壺		(7.7)	7.1	WB	A	灰	10	末野産 底部全面ヘラ 内外面自然釉付着
7	坏	(12.8)	3.8		WBR	B	橙	25	
8	坏	(12.6)	4.1		WB	B	橙	25	
9	坏	(12.6)	(3.6)		WBR	B	橙	10	
10	壺	(11.8)	(5.0)		WB	A	灰白	5	秋間産？ 内外面自然釉付着
11	坏	(12.8)	(3.1)		WBR	B	黄橙	10	
12	坏	(13.0)	4.6		WB	B	橙	20	
13	坏	(13.8)	(3.6)		WBR	B	橙	15	
14	坏	(14.9)	(2.9)		WR	A	灰褐	5	
15	甕	(21.0)	(9.3)		WB	B	橙	20	No.1
16	甕				WBR	C	にぶい褐		

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.77m×南北幅3.20m×深さ0.20m、主軸方位N—69.5°—Eを測る。

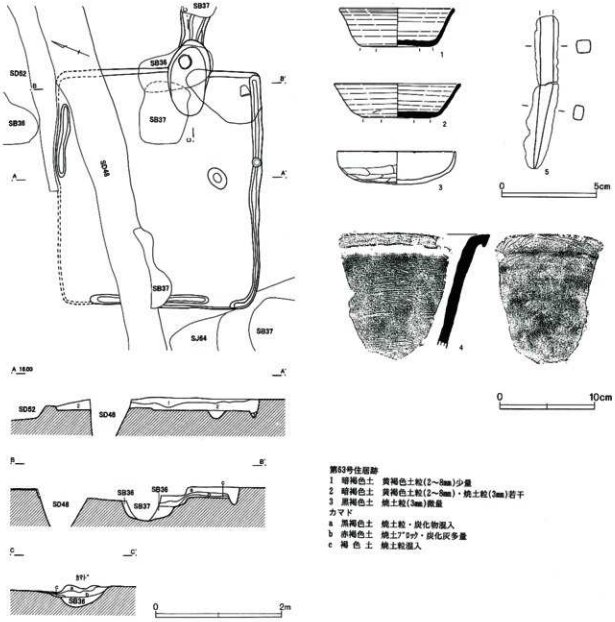
カマドは東壁中央に設置され、第36号掘立柱建物跡柱穴を埋め戻して構築されている。燃焼部付近は第37号掘立柱建物跡柱穴が攪乱し、袖部は残存していない。また煙道部先端も第37号掘立柱建物跡柱穴が重複している。壁溝は北壁・西壁の一部と南壁に沿って巡り、幅0.08～0.16m、深さ0.28mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第64・65号住居跡（第133・134・49図）

BD37・38、BE37・38グリッドに位置する。重複する2軒の住居跡と捉えて調査を行ったが、明確に覆土を分層することができず、第64号住居跡が第65号住居

第132図　F区第63号住居跡・出土遺物



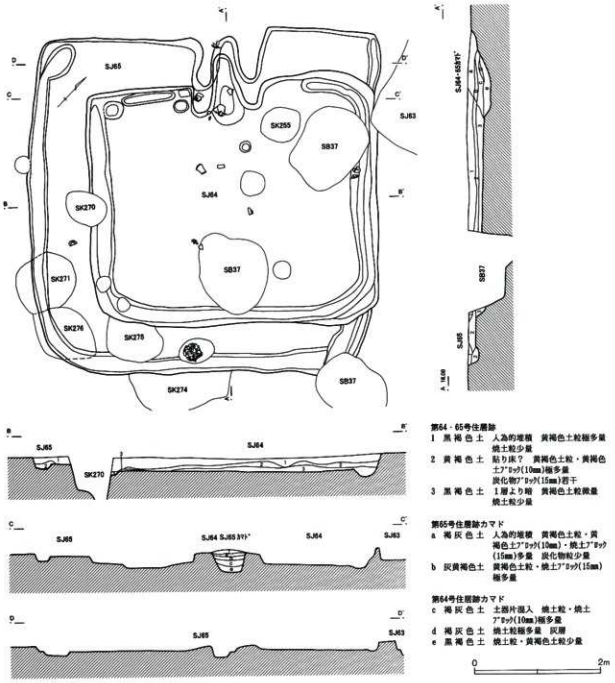
F区第63号住居跡出土遺物観察表（第132図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.0)	4.1	7.1	WB 針	A	灰	50	南比企産 底部周辺ヘラ 口縁端部に自然釉付着
2	坏	13.4	3.6	7.1	WB 針	A	灰白	95	No.3 南比企産 底部周辺ヘラ
3	坏	12.3	3.6		WB	B	橙	90	No.1 油芯
4	鉢				WR 針	B	灰黄		No.12 南比企産
5	釘								カマド 長さ8.1×幅0.7×厚さ0.7×重さ17.0g

跡に拡張されたものと判断される。第275号土壙と重複し、第63号住居跡、第37号掘立柱建物跡、第255・270号土壙よりも古い。

拡張前の第64号住居跡の平面形態は長方形で、規模は主軸長3.80m×幅4.55m×深さ0.22mを測る。拡張後の第65号住居跡の平面形態は方形で、規模は主軸長5.45m×幅(5.44)m×深さ0.12mを測る。拡張前後の床面比高差約0.10mは、拡張段階に覆土3・4層を人為的に埋め戻して整形している。主軸方位はN－46.5°－Wを向いている。

第133図　F区第64・65号住居跡



カマドは北壁中央に設置されている。拡張後の第65号住居跡カマドは、拡張前の第64号住居跡カマドを埋め戻してから構築されている。第65号住居跡の壁溝は西壁～南壁～東壁に巡り、幅0.16～0.35m、深さ0.18mほどである。第64号住居跡の壁溝は北西コーナー付近で途切れるほかは全周し、0.24～0.43m、深さ0.35mほどである。拡張前後とも柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

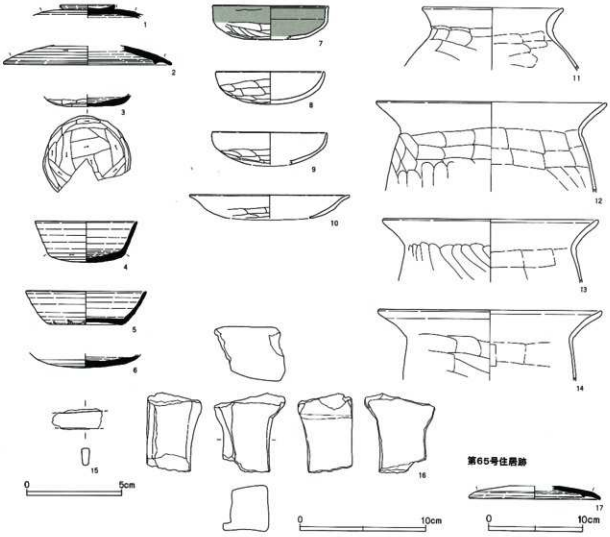
遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第66号住居跡（第135・49図）

BD37グリッドに位置し、第48号溝跡と重複する。

平面形態は方形であるが、重複する第48号溝跡以西は削平され、平面規模は不明である。深さ0.21mを測

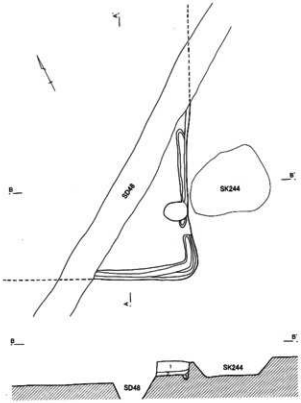
第134図　F区第64・65号住居跡出土遺物



F区第64・65号住居跡出土遺物観察表（第134図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏		(1.4)		WB	A	灰白	10	SJ64・65 群馬産
2	蓋	(17.8)	(2.0)		WB	C	灰	10	SJ64・65 末野産
3	坏		(1.3)		WB 針	A	灰黄	20	SJ64・65 №6 南比企産 手持ちヘラケズリ
4	坏	(10.8)	4.3		WR	A	褐灰	40	SJ64・65 末野産？ 底部全面ヘラ
5	坏	(12.7)	3.5	(7.7)	WB 針	A	灰白	30	SJ64・65 南比企産 底部糸切離し
6	坏		(1.5)		WB 片	C	灰白	20	SJ64・65 末野産
7	坏	(12.1)	(3.6)		B	A	橙	15	SJ64・65 赤彩
8	坏	(11.4)	3.4		BR	B	にぶい橙	70	SJ64・65
9	坏	(12.0)	(3.5)		WBR	B	にぶい橙	20	SJ64・65 №5
10	盤	(16.8)	(2.4)		WB	B	橙	5	SJ64・65
11	甕	(14.8)	(7.7)		WBR	B	にぶい黄橙	15	SJ64・65
12	甕	(24.2)	(9.4)		WB	B	にぶい黄橙	15	SJ64・65 №8
13	甕	(22.6)	(6.6)		BR	B	にぶい黄橙	10	SJ64・65 №8
14	甕	(23.5)	(7.4)		BR	B	橙	15	SJ64・65 №14
15	刀子								SJ64・65 長さ2.6×幅0.9×厚さ0.35×重さ2.4g
16	砥石								SJ64・65 №7 長さ6.2×幅4.3×厚さ3.5×重さ150.0g
17	蓋	(14.0)	(1.4)		WB	A	灰黄	10	SJ65 末野産

第135図　F区第66号住居跡



る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。壁溝が途切れながら巡り、幅0.10～0.18m、深さ0.22～0.26mほどである。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は出土していない。

第68・69号住居跡（第136・47図）

BC35、BD35グリッドに位置する。第252号土壙と重複し、第63・64・65号溝跡よりも古い。

第69号住居跡は第68号住居跡が拡張されたものである。平面形態は方形であるが、第63・64・65号溝跡に攪乱されているため、平面規模は不明である。東西幅が4.86mから5.30mに拡張され、主軸方位N－41°－Eを測る。第69号住居跡の床面は拡張前の第68号住居跡を埋め戻して整形している。

カマドは北壁中央に設置されているが、第63・64号溝跡によって燃焼部が攪乱され、煙道の一部が検出されている。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は出土していない。

第70号住居跡（第137・62・63図）

BG50グリッドに位置する。第257・298号土壙、第28号溝跡と重複し、第54号井戸跡よりも古い。

拡張が行われている住居跡で、平面形態は長方形から方形に変化している。拡張前の規模は南北長4.52m、東西長3.75m、拡張後の規模は東西長5.10m、南北長は不明である。南北軸方位はN－45°－Eを測る。確認段階で既に床面が露呈しているが、拡張に伴って貼床が施されている。

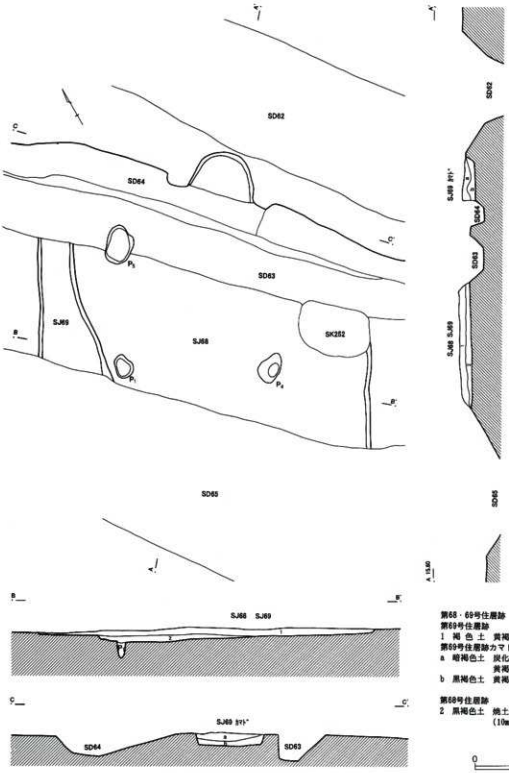
柱穴は4本で、拡張に伴って付設されている。柱痕が残存し、柱掘形は黄褐色土を含む黒褐色土が互層に充填されている。壁溝は西壁を除いて全周し、幅0.24～0.29m、深さ0.08～0.10mほどである。カマド・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示し得ないが、土師器甕・坏片が出土している。

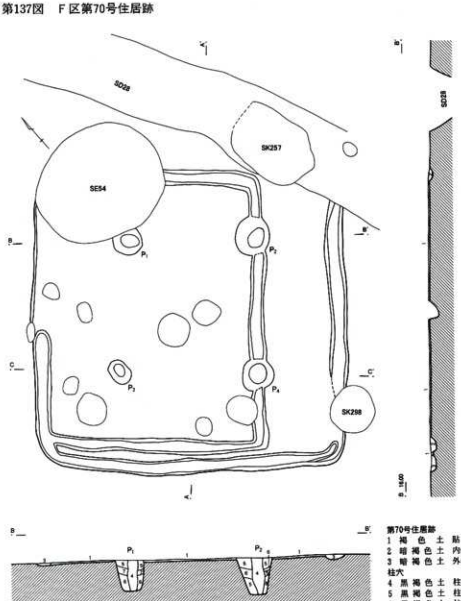
第71・72号住居跡（第138・139・62・63図）

BG49グリッドに位置する。重複する第269号土壙よ

第136図　F区第68・69号住居跡



第137図　F区第70号住居跡

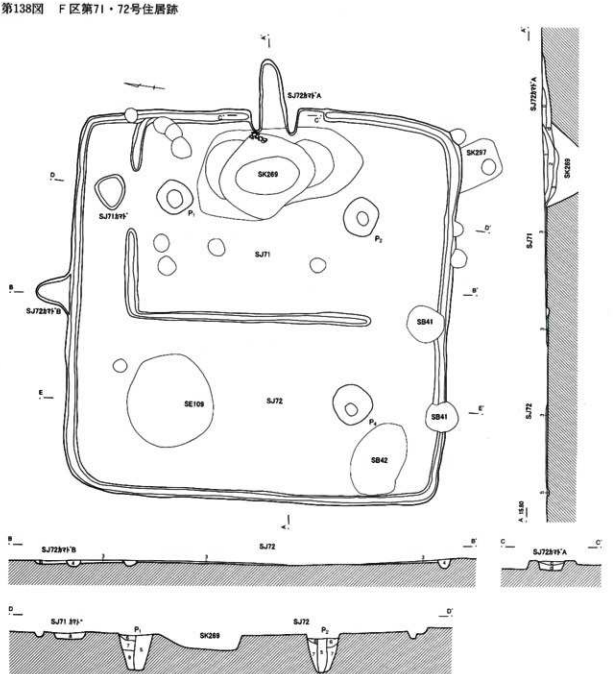


りも新しく、第41・42号掘立柱建物跡、第109号井戸跡よりも古い。

遺構確認段階で既に床面が露呈し、埋没状況が不明なため、2軒の住居跡の関係は明確ではない。東辺を一致させている状態から、拡張とも捉えられるが、拡張前後の規模格差はきわめて大きい。新旧関係と捉えるならば、第72号住居跡が新しく、第71号住居跡が古い。

第71号住居跡の平面形態は長方形で、規模は主軸長(5.25) m×東西幅3.36m、主軸方位N－6°－Wを測る。カマドは北壁中央に設置されているが、燃焼部・袖部・煙道部等はすでに消失しており、掘形のみが残存している。壁溝は東壁～カマド部を除く北壁～西壁に沿って巡り、幅0.13～0.20m、深さ0.05mほどであ

第138図　F区第71・72号住居跡



第71・72号住居跡

1　ｺﾞﾛ黄褐色土　黄褐色土粒（2～5mm）多量
2　暗 褐 色 土　黄褐色土粒若干
3　暗 褐 色 土　貼り床　黄褐色土粒・ﾌﾞﾛｯｸ（2～10mm）多量
4　暗 褐 色 土　SJ72の壁溝　黄褐色土粒（2～5mm）少量

第71号住居跡カマド

a　暗 褐 色 土　ｶﾏﾄﾞの掘形　人為的堆積　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ（5～15mm）混入

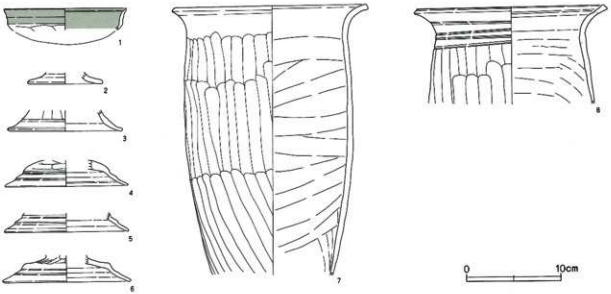
第72号住居跡柱穴

5　黒 褐 色 土　黄褐色土粒（2～5mm）若干
6　黒 褐 色 土　柱掘形充填　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ粒と混入しない
7　暗 褐 色 土　柱掘形充填　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ50%混入
8　ｺﾞﾛ黄褐色土　柱掘形充填　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ多量

第72号住居跡カマド

b　暗 褐 色 土　黄褐色土粒（3～8mm）多量
c　暗 褐 色 土　焼土粒多量
d　ｺﾞﾛ黄褐色土　掘形　黄褐色土粒・ﾌﾞﾛｯｸ多量

第139図　F区第72号住居跡出土遺物



F区第72号住居跡出土遺物観察表（第139図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(13.0)	(2.3)		WR	B	にぶい黄褐	5	No.4 赤彩
2	台付甕		(1.2)	(7.8)	WR	B	黄橙		
3	台付甕		(2.2)	(12.0)	BR	B	橙		
4	台付甕		(2.8)	(13.0)	BR	B	橙		
5	台付甕		(2.0)	(13.0)	BR	B	橙		
6	台付甕		(2.8)	(13.4)	BR	B	橙		
7	甕	(20.2)	(28.8)		BR	B	橙	30	P4 カマド
8	甕	19.6	(10.3)		WB	B	橙	30	カマド

る。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

第72号住居跡の平面形態は方形で、規模は主軸長6.17m×東西幅6.04m、主軸方位N—80°—Eを測る。床面には貼床が施されている。カマドは東壁中央（カマドA）と北壁中央（カマドB）に検出されている。住居跡構築当初はカマドBが設置され、このカマドを廃棄後、新たにカマドAが設置されている。カマドBの廃棄後、燃焼部には壁溝が掘り込まれている。カマドAは袖部が造り付けられ、燃焼部には焼土粒が多量に堆積している。検出された柱穴は3本で、残る北西柱穴は第109号井戸跡によって攪乱されている。柱痕が認められ、柱掘形は丁寧に充填されている。壁溝は全周し、幅0.13～0.24m、深さ0.03～0.15mほどである。貯蔵穴は確認されていない。

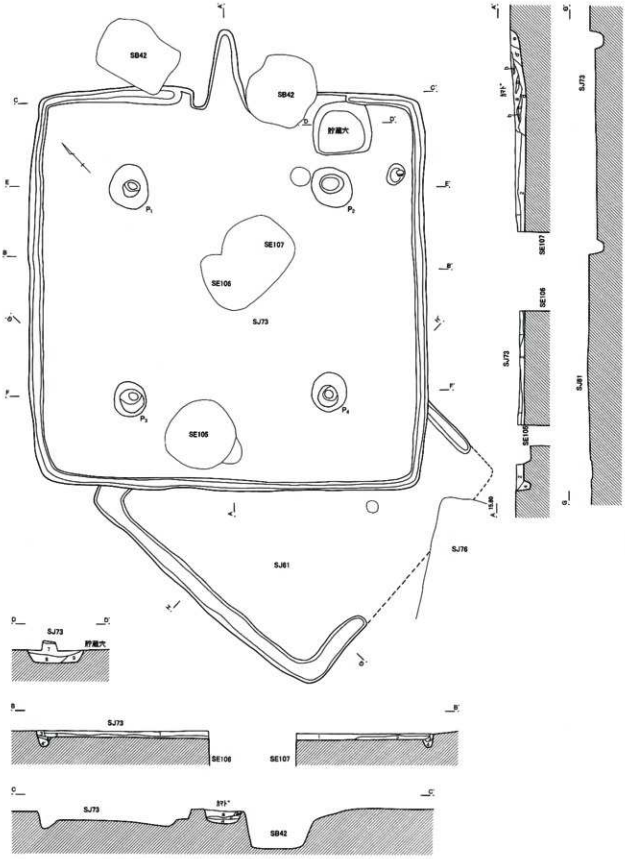
遺物は図示したほかに、土師器甕・高坏・坏片が出土している。

第73・81号住居跡（第140・141・59・63図）

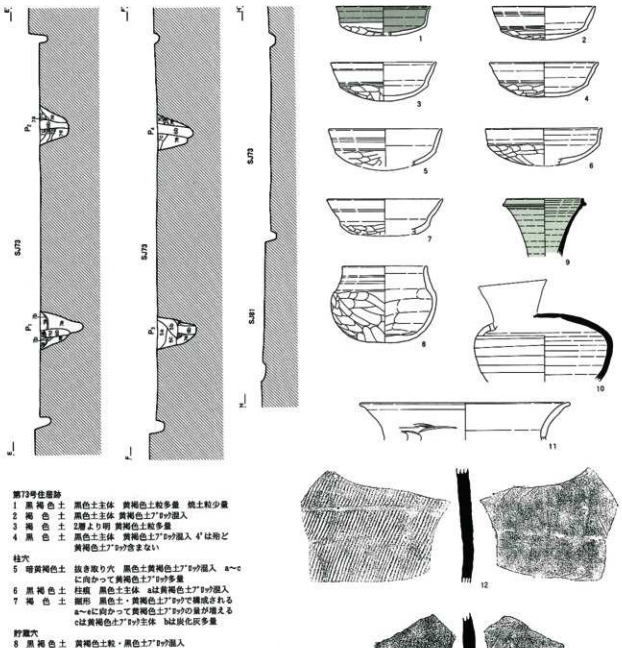
BH48・49、BI48・49グリッドに位置する。重複する第73号住居跡と第81号住居跡の新旧関係は、第73号住居跡が新しい。

第73号住居跡は第105・106・107号井戸跡と重複し、第42号掘立柱建物跡よりも古い。平面形態は方形で、規模は主軸長6.33m×幅6.29m×深さ0.16m、主軸方位N—41.5°—Eを測る。埋没状況は自然堆積である。カマドは北壁中央に設置され、袖部は地山が掘り残されている。カマド上層には焼土が広がり、天井部の土層が認められない範囲に器設部が想定される。柱穴は4本で、柱痕が残存している。P3では柱抜き取り痕も確認できる。柱掘形は黄褐色土を含む黒褐色土が充填されている。壁溝ははほぼ全周し、幅0.11～0.21m、深さ0.08～0.30mほどである。貯蔵穴は北東コーナー部に付設され、長径0.93m×短径0.82m×深さ0.19m

第140図　F区第73・81号住居跡



第141図　F区第73号住居跡出土遺物



第73号住居跡
1　黒 褐 色 土　黒色土主体　黄褐色土粒多量　焼土粒少量
2　褐　色　土　黒色土主体 黄褐色土ブロック混入
3　褐　色　土　2層より明 黄褐色土粒多量
4　黒　色　土　黒色土主体　黄褐色土ブロック混入 4′は褐色
　　黄褐色土ブロック含まない
柱穴
5　暗黄褐色土　抜き取り穴　黒色土黄褐色土ブロック混入　a～c
　　に向かって黄褐色土ブロック多量
6　黒 褐 色 土　柱痕　黒色土主体　aは黄褐色土ブロック混入
7　褐　色　土　腐形　黒色土・黄褐色土ブロックで構成される
　　a～cに向かって黄褐色土ブロックの量が増える
　　cは黄褐色土ブロック主体　bは炭化灰多量
貯蔵穴
8　黒 褐 色 土　黄褐色土粒・黒色土ブロック混入
9　黒 灰 色 土　風化した黄褐色土粒均一混入
カマド
a　黒 褐 色 土　比較的均質な層であるが、焼土ブロック混入
b　赤　色　土　　焼土主体　黒色土混入
c　黒 灰 色 土　炭化灰主体　焼土ブロック少量
d　黒　色　土　炭化物・焼土ブロック少量
e　褐　色　土　黄褐色土粒・焼土粒混入

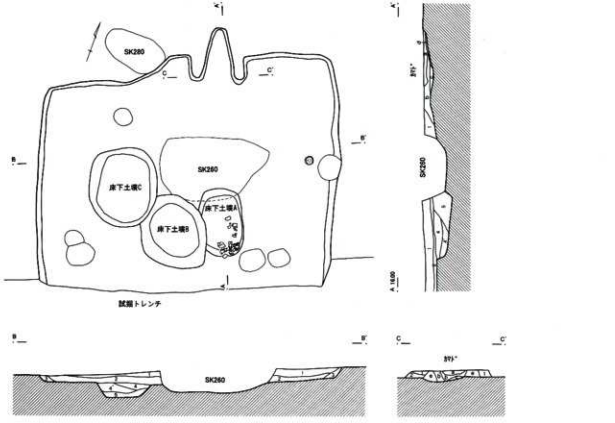
の平面長方形である。遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第81号住居跡は重複する第76号住居跡よりも古い。平面形態は方形で、規模は東西長4.73m、南北軸方位N－7°－Wを測る。遺構確認段階で既に床面は削平されている。壁溝は北壁北西コーナー～西壁～南壁南西コーナーと東壁に巡り、幅0.20～0.33m、深さ0.08mほどである。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示し得ないが、須恵器坏片、土師器甕片が出土している。

F区第73号住居跡出土遺物観察表（第141図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	(9.9)	(3.1)		WBR	B	にぶい橙	30	赤彩
2	坏	10.7	3.6		BR	B	橙	75	
3	坏	(11.2)	4.1		WB	B	にぶい橙	60	
4	坏	(11.4)	3.7		WB	B	にぶい橙	40	
5	坏	(11.8)	3.9		B	B	橙	10	
6	坏	(12.2)	(3.9)		WBR	B	にぶい黄褐	25	
7	坏	(12.2)	(3.7)		B	B	灰黄褐	10	
8	椀	8.3	8.1		WB	B	橙	100	No.1
9	長頸壺	(8.1)	(6.1)		WB	A	灰		湖西産？ 内外面自然釉付着
10	平瓶		(7.2)		B	B	灰	30	湖西産
11	甕	(21.8)	(3.9)		WB	B	にぶい橙	5	
12	甕				WB	A	灰白		
13	甕				WB	A	灰		

第142図　F区第74号住居跡

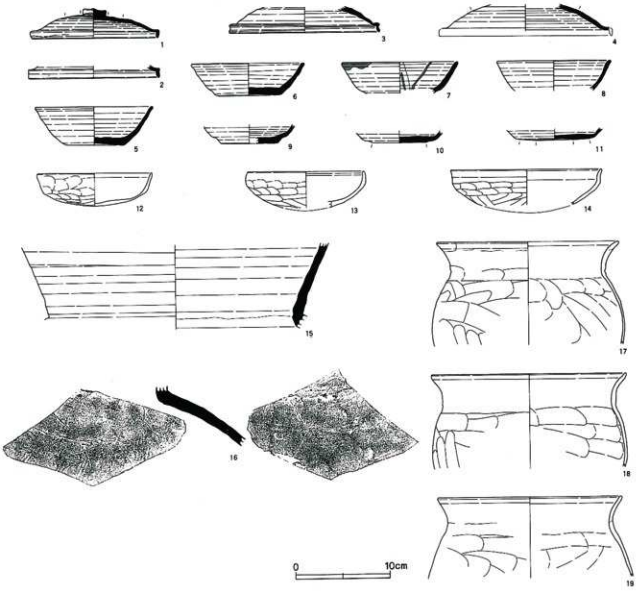


第74号住居跡（第142・143・63図）

BH49、BI49グリッドに位置し、重複する第260号土壙よりも古い。

平面形態は方形であるが、南壁付近は遺構所在確認のための試掘トレンチによって破損している。規模は東西長4.77m×深さ0.19m、主軸方位N—21°—Wを

第143図　F区第74号住居跡出土遺物



測る。埋没状況は人為的に埋め戻された可能性がある。

カマドは北壁中央東よりに設置されている。北壁はカマド西側から北東コーナーにかけて張り出している。袖部は造り付けられ、黒褐色土を含む暗黄褐色土で構築されている。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。3基の床下土壙が確認され、Aは長径1.07m×短径(0.70)m×深さ0.34mの平面長方形である。Bは長径1.28m×短径1.06mの平面隅丸方形、Cは長径1.25m×短径1.09m×深さ0.23mの平面隅丸方形である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第75号住居跡（第144・63図）

BI49、BJ48・49グリッドに位置する。

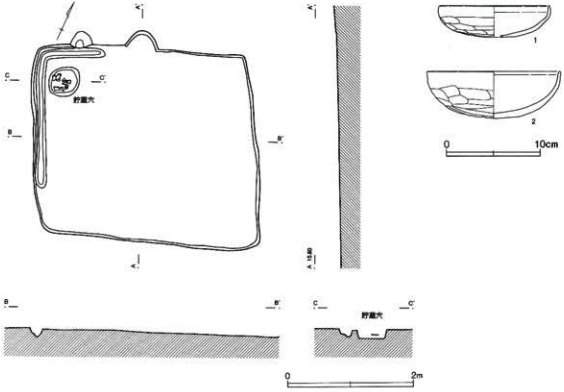
平面形態は長方形で、規模は主軸長3.06m×幅3.53m、主軸方位N—24°—Wを測る。遺構確認段階で既に床面は露呈し、埋没状況は不明である。

カマドは北壁中央に燃焼部の残欠のみが確認されている。柱穴は検出されていない。壁溝は北壁北西コーナー～西壁に巡り、幅0.14m、深さ0.10mほどである。貯蔵穴は北西コーナーに付設され、南北0.47m×東西

F区第74号住居跡出土遺物観察表（第143図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	13.3	3.1		WBR 針	A	青灰	100	No.1 南比企産
2	蓋	(13.7)	(1.3)		WB 針	C	灰	5	南比企産
3	蓋	(15.9)	(2.7)		WB 針	A	灰	10	南比企産
4	蓋		(2.5)		WB 針	A	灰	10	カマド 南比企産
5	坏	(12.3)	4.0	6.2	WB 針	A	灰黄	40	南比企産 底部糸切離し
6	坏	11.9	3.4	6.9	WB	A	灰	100	東金子産 底部糸切離し
7	坏	(12.2)	(3.3)		WB 針	A	灰	10	床下土壌B 南比企産 火だすき痕
8	坏	(12.0)	(3.2)		WB 針	A	灰白	5	南比企産
9	坏		(2.0)	(6.0)	WB 針	B	灰白	5	南比企産 内面擦痕
10	坏		(1.3)	(5.7)	WB 針	A	灰	5	南比企産 底部全面ヘラ 内面擦痕
11	坏		(1.2)	(7.5)	WB 針	A	灰	5	南比企産 底部周辺ヘラ
12	坏	(12.0)	3.5		BR	B	にぶい黄褐	40	
13	坏	(12.2)	(3.8)		B	B	黄褐	30	
14	坏	(15.9)	(3.7)		BR	B	橙	30	
15	甕		(8.9)		WB 針	A	灰		南比企産
16	甕				WB 針	A	灰		南比企産
17	甕	(19.2)	(10.9)		BR	B	橙	20	No.3・4
18	甕	(20.6)	(9.9)		BR	B	橙	15	No.3・4・8
19	甕	(19.4)	(8.5)		B	B	橙	5	No.4

第144図　F区第75号住居跡・出土遺物



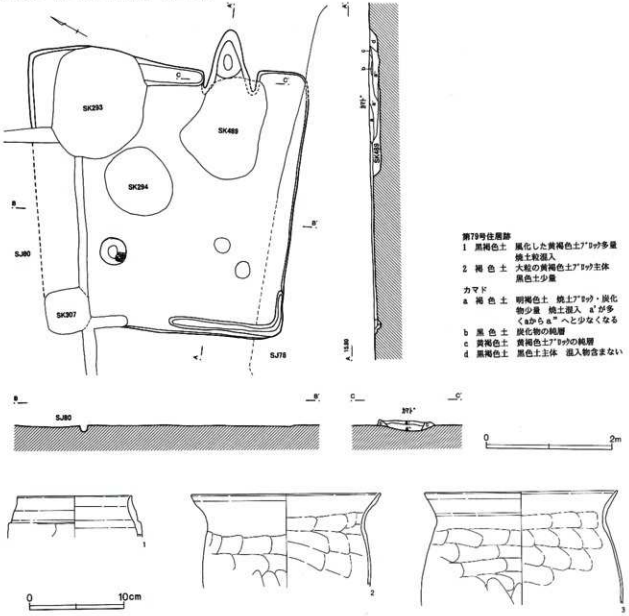
F区第75号住居跡出土遺物観察表（第144図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	11.6	(2.8)		WBR	B	暗褐	70	No.1・2
2	坏	14.0	4.9		WBR	B	橙	70	No.1・3・4

0.48m×深さ0.13mを測る平面方形である。　　いる。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土して

第145図　F区第79号住居跡・出土遺物



F区第79号住居跡出土遺物観察表（第145図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	椀	(12.0)	(4.4)		WB	A	橙	5	
2	甕	(20.0)	9.9		BR	B	橙	15	No.1
3	甕	(20.4)	(12.0)		BR	B	橙	20	No.1

第79号住居跡（第145・59図）

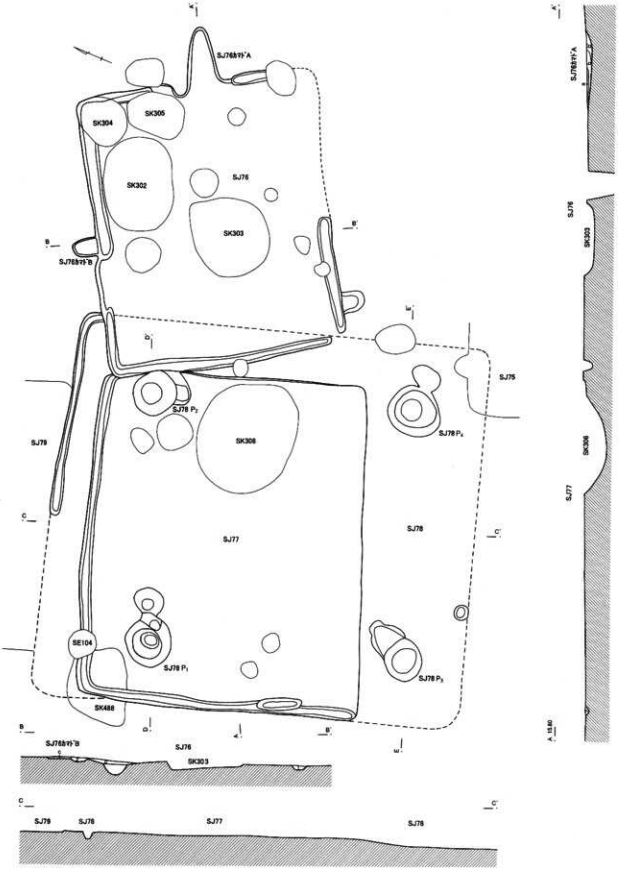
BI48グリッドに位置する。第293・294・307・489号土壙と重複し、第76・77・78・80号住居跡よりも古い。

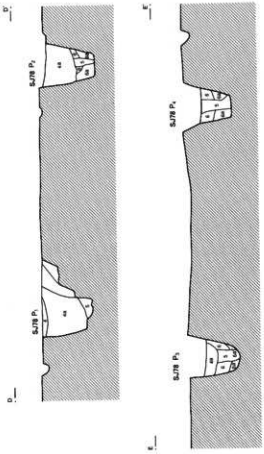
平面形態は方形で、規模は主軸長4.17m×南北幅4.35m×深さ0.03m、主軸方位N—67°—Eを測る。

カマドは東壁南端に設置され、袖部は造り付けられている。壁溝は北東コーナーおよび南西コーナーに検出され、幅0.08～0.17m、深さ0.09mほどである。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第146図　F区第76・77・78号住居跡・出土遺物





第76・77・78号住居跡
第76号住居跡
1 黒褐色土　黒色土主体　黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ混入
2 黒褐色土　黒色土主体　焼土ﾌﾞﾛｯｸ・炭化物・黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ多量
第76号住居跡カマドA
a 赤褐色土　床面　黄褐色土被熱して赤色化
b 黄褐色土　黄褐色土主体　黒色土・焼土混入　b'は黄褐色土多量
第76号住居跡カマドB
c 黒褐色土　黒色土主体　黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ・焼土ﾌﾞﾛｯｸ混入

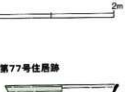
第77号住居跡
3 黒褐色土　黒色土主体　黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ混入

第78号住居跡柱穴
4 黒色土　黄褐色土粒混入均質な層　4aは黒色土・風化した黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ同量混入
5 暗黒褐色土　黒色土主体　風化した黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ混入
6 褐色土　黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ・黒色土　6aは黄褐色土主体

0　2m

第76号住居跡

第77号住居跡



0　10cm

第76号住居跡（第146・59・63図）

BI48・49グリッドに位置する。第302・303・304・305号土壙と重複し、第77・78・79号住居跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長4.55m×幅3.78m、主軸方位N—59°—Eを測る。遺構確認段階には既に床面は消失し、埋没状況は不明である。

カマドは東壁中央（カマドA）と北壁中央（カマドB）に設置されている。カマドBは住居跡構築当初に付設されたもので、廃棄後、壁溝が掘り直されている。カマドAは造り替えられたもので、袖部が造り付けられている。壁溝は途切れながらもほぼ全周し、幅0.12～0.24m、深さ0.06mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第77・78号住居跡（第146・59図）

BI48、BJ48グリッドに位置し、第306・488号土壙と重複する。第76号住居跡よりも古く、第78・79号住居跡よりも新しい。遺構確認段階で既に床面が露呈し、埋没状況は不明であり、2軒の住居跡の関係は明確ではない。調査所見では新旧関係と判断され、第77号住居跡の方が新しい。

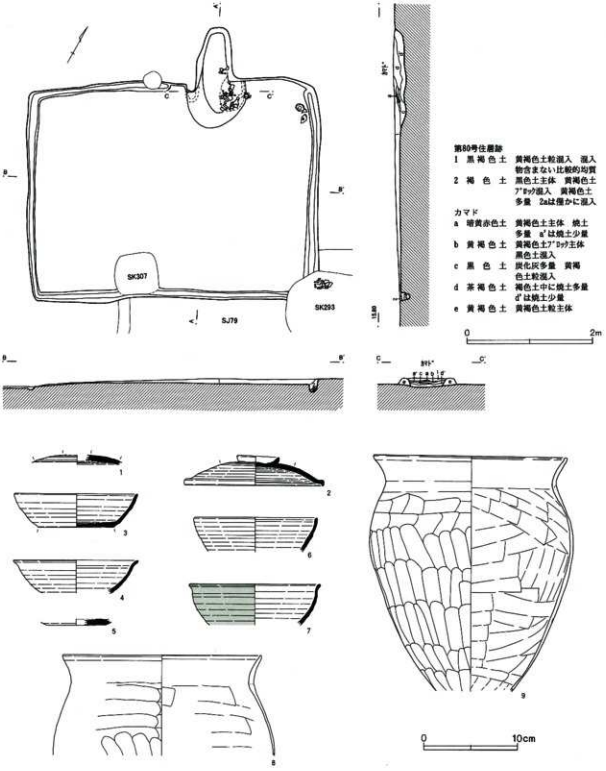
第77号住居跡の平面形態は長方形で、規模は南北長4.40m×東西長5.25m、南北軸方位N—29°—Wを測る。壁溝は北壁～西壁を巡り、幅0.13～0.19m、深さ0.12mほどである。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、土師器甕片が出土している。

第78号住居跡の平面形態は方形であるが、規模は南北長(6.75)m×東西長(6.00)m程度で、南北軸方位N—20°—Wを測る。柱穴は4本検出されている。柱は抜き取られているが、一部柱痕が残存している。壁溝は北東コーナー付近に巡り、幅0.11～0.17mほどであ

F区第76・77号住居跡出土遺物観察表（第146図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.9)	(3.2)		WBR 針	A	灰	5	SJ76 南北企画
2	坏	(11.9)	(3.3)		WB	B	灰白	50	SJ77 自然釉付著

第147図　F区第80号住居跡・出土遺物

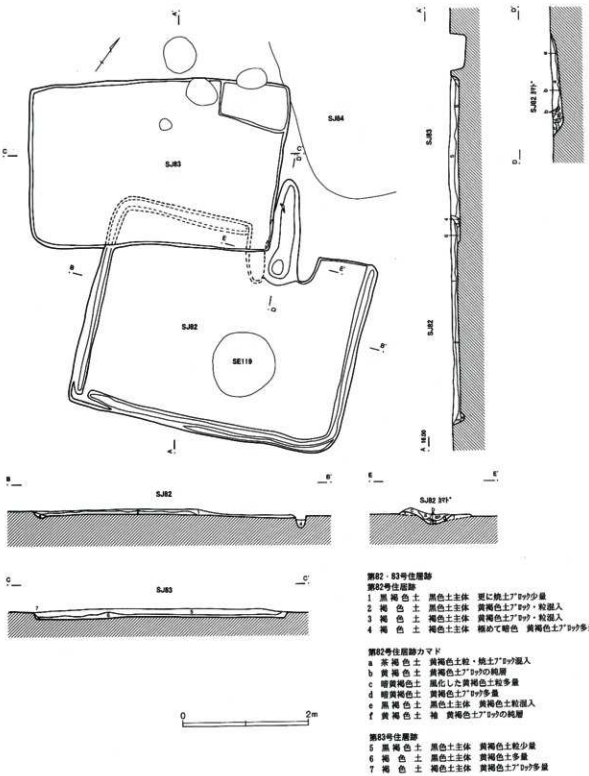


る。カマド・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第80号住居跡（第147・59図）

BH48、BI47・48グリッドに位置する。第293・307号土壙と重複し、第79号住居跡よりも新しい。

第148図　F区第82・83号住居跡



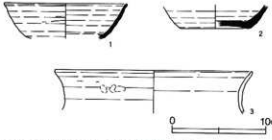
平面形態は長方形で、規模は主軸長3.45m×東西幅4.61m×深さ0.09m、主軸方位N—33.5°—Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積である。

カマドは北壁中央東よりに設置され、袖部は造り付けられている。壁溝は北壁東半を除き全周し、幅0.09～0.23m、深さ0.05～0.20mほどである。柱穴・貯蔵

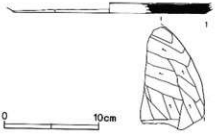
F区第80号住居跡出土遺物観察表（第147図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.0)		WBR 針	A	灰白	5	南比企産
2	蓋	14.6	3.3		BR	C	にぶい黄褐	90	№2・3 群馬産
3	坏	(12.8)	(3.5)	(8.0)	B	C	にぶい黄褐	40	№6 末野産 底部全面ヘラ
4	坏	(13.2)	(3.5)		B針	B	灰	20	南比企産
5	坏		(6.0)	(6.2)	WBR 針	B	灰	5	№9 南比企産
6	坏	(13.0)	(3.6)		WBR 針	A	灰黄	5	南比企産
7	坏	(13.9)	(4.3)		WB 針	A	灰	5	南比企産 外面自然釉付著
8	甕	(21.0)	(10.6)		BR	B	橙	15	№5
9	甕	20.3	(24.8)		BR	B	橙	70	カマドNo.7

第149図　F区第82号住居跡出土遺物



第150図　F区第83号住居跡出土遺物



F区第82号住居跡出土遺物観察表（第149図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(13.0)	(3.7)		WBR 針	A	灰	20	南比企産
2	坏		(2.5)	(7.2)	WB 針	C	にぶい橙	5	南比企産 底部糸切離し
3	甕	(21.0)	(4.5)		WBR	B	橙	5	No.1

F区第83号住居跡出土遺物観察表（第150図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕		(1.1)	(20.4)	WR 片	C	黄灰		末野産

穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第82・83号住居跡（第148・149・150・59図）

BH47・48グリッドに位置する。第82号住居跡と第83号住居跡の新旧関係は、第82号住居跡が新しい。

第82号住居跡は重複する第119号井戸跡よりも新しい。平面形態は長方形で、規模は主軸長3.08m×東西幅4.34m×深さ0.11m、主軸方位N－22.5°－Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積である。カマドは北壁中央東よりに設置され、袖部は地山を掘り残して形成されている。壁溝は北壁東半を除いて全周し、幅0.16～0.24m、深さ0.11～0.17mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第83号住居跡の平面形態は長方形で、規模は南北長2.59m×東西長3.99m×深さ0.10m、南北軸方位N－32.5°－Wを測る。覆土の堆積状況は、人為的に埋め戻されている。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

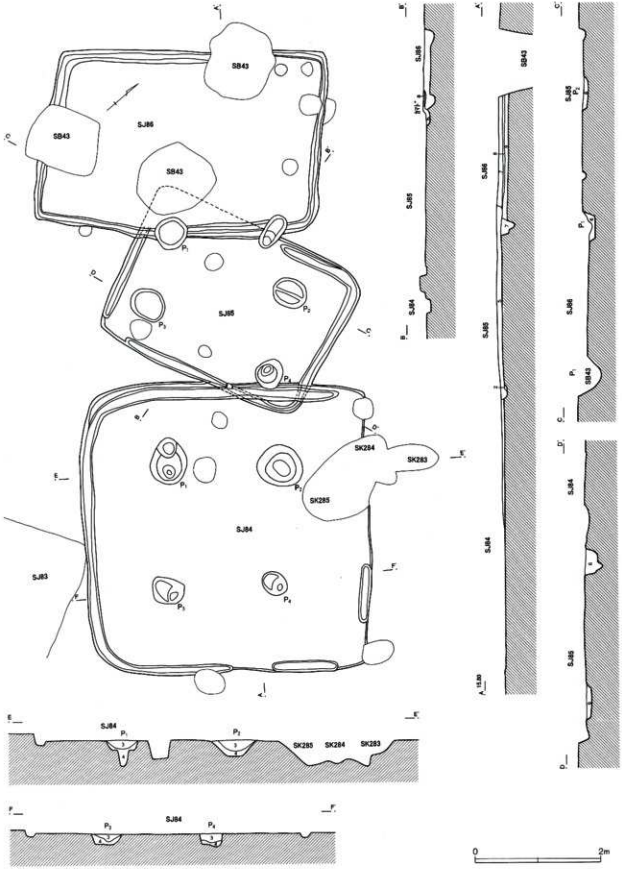
第84号住居跡（第151・152・59図）

BG48、BH48グリッドに位置する。重複する第83・85号住居跡、第283・284・285号土壙よりも古い。

平面形態は方形で、規模は東西長4.46m×南北長4.56m、南北軸方位N－38°－Eを測る。遺構確認段階には既に床面が露呈し、埋没状況は不明である。

カマド・貯蔵穴は検出されていない。柱穴は4本で、柱は抜き取られている。壁溝は北東コーナー・東壁中央付近で途切れるが北壁中央～東壁～南壁～西壁に巡

第151図　F区第84・85・86号住居跡



第84・85・86号住居跡
第84号住居跡
1 灰黄褐色土　黄褐色土粒(2～5mm)少量
2 にぶい黄褐色土　黄褐色土粒(2～5mm)多量
第84号住居跡柱穴
3 黒 褐 色 土　人為的堆積　黄褐色土ブロック(2～10mm)多量
4 にぶい黄褐色土　人為的堆積　黄褐色土ブロック(2～10mm)多量

第85号住居跡
5 暗 褐 色 土　黄褐色土粒(2～5mm)・焼土粒(3mm)若干

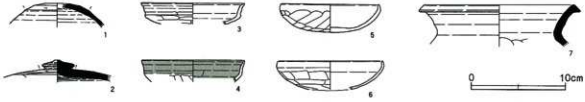
第85号住居跡柱穴
6 にぶい黄褐色土　人為的堆積　黄褐色土ブロック(5～20mm)多量
第85号住居跡カマド
a 黒 褐 色 土　黄褐色土粒若干　焼土粒(2～5mm)混入
b 暗 褐 色 土　掘形　黄褐色土ブロック(2～10mm)少量

第86号住居跡
7 黒 褐 色 土　黄褐色土粒(2～5mm)若干
8 明黄褐色土　貼り床1　黄褐色土ブロック(5～20mm)多量
9 黒 褐 色 土　貼り床2　黄褐色土ブロック(5～15mm)若干

第152図　F区第84号住居跡出土遺物

第153図　F区第85号住居跡出土遺物

第154図　F区第86号住居跡出土遺物



F区第84号住居跡出土遺物観察表（第152図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	(12.9)	(3.3)		WB	B	灰白	5	自然釉付着
2	甕	(21.0)	(5.1)		WB	A	橙	5	P 3

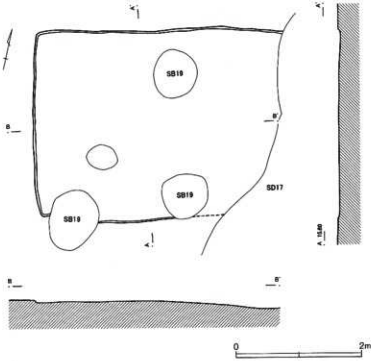
F区第85号住居跡出土遺物観察表（第153図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	蓋	(17.9)	(1.5)		W	B	灰	5	
2	坏	12.0	3.8	6.0	WB	A	灰	40	底部糸切離し
3	坏		(2.1)	(6.6)	WB 針	A	灰	10	南比企産 底部全面ヘラ 内面撫底
4	甕				WB	B	灰		No 1 内外面自然釉付着 研磨痕

F区第86号住居跡出土遺物観察表（第154図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	蓋		(2.5)		WB	B	灰白	10	
2	蓋		(2.4)		WB	A	灰白	10	
3	坏	(11.0)	(2.7)		WBR	A	橙	10	
4	坏	(10.9)	(2.3)		WBR	A	にぶい橙	5	赤彩
5	坏	10.3	3.0		WBR	B	橙	80	
6	坏	(11.0)	(3.0)		WB	B	橙	25	
7	甕	(16.0)	(4.4)		WBR	C	灰白		

第155図　F区第87号住居跡



り、幅0.11～0.21m、深さ0.08～0.10mほどである。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第85号住居跡（第151・153・59図）

BG47・48グリッドに位置する。第43号掘立柱建物跡と重複し、第84・86号住居跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長2.56m×東西幅3.57m×深さ0.07m、主軸方位N－23°－Wを測る。埋没状況は明確ではない。

カマドは北壁中央に、燃焼部の掘形のみが検出されている。柱穴は4本検出されているが、いずれも浅い。壁溝は南西コーナーを除いて全周し、幅0.10～0.20m、深さ0.10～0.17mほどである。貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第86号住居跡（第151・154・59図）

BG47・48グリッドに位置し、重複する第85号住居跡、第43号掘立柱建物跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は南北長2.92m×東西長4.48m×深さ0.15m、南北軸方位N－42°－Wを測る。

壁溝は全周し、幅0.11～0.20m、深さ0.21mほどである。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

第87号住居跡（第155・63図）

BH51・52グリッドに位置し、重複する第19号掘立柱建物跡、第17号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は南北長2.96m、南北軸方位N－16°－Wを測る。遺構確認段階で既に床面が露呈し、埋没状況は明確ではない。

カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

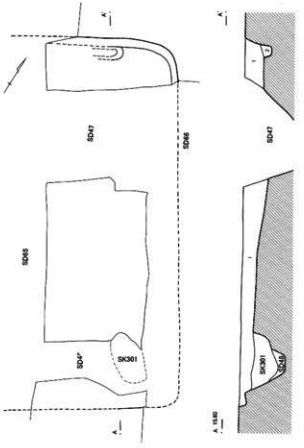
遺物は出土していない。

第88号住居跡（第156・49図）

BD36、BE36グリッドに位置し、第301号土壙、第47・48・65・66号溝跡と重複する。

平面形態は方形であるが、溝跡との重複が著しく、規模は不明である。深さ0.29m、南北軸方位N－35.5°－Wを測る。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

第156図　F区第88号住居跡



遺物は出土していない。

第89号住居跡（第157・158・59図）

BI46・47、BJ46・47グリッドに位置し、重複する第119号住居跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.70m×南北幅4.95m×深さ0.29m、主軸方位N—56.5°—Eを測る。埋没状況は自然堆積で、貼床は2回行われている。

カマドは東壁中央南よりに設置され、支脚が据えられている。天井部は崩落し、燃焼部には炭化物層が堆積している。壁溝は南壁～西壁に巡り、幅0.15～0.26m、深さ0.30～0.36mほどである。貯蔵穴は南東コーナーに付設され、長径0.75m×短径0.62m×深さ0.18mの平面不整方形である。柱穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・高坏・坏片が出土している。

第119号住居跡（第157・159・59図）

BI47、BJ47グリッドに位置する。重複する第89・118・120号住居跡、第70号溝跡、第141・143号井戸跡よりも古い。

平面形態は方形であるが、規模は不明である。東西長2.89m×深さ0.15m、東西軸方位N—63°—Eを測る。堅く踏みしめられた床面が残存している。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第90号住居跡（第160・59図）

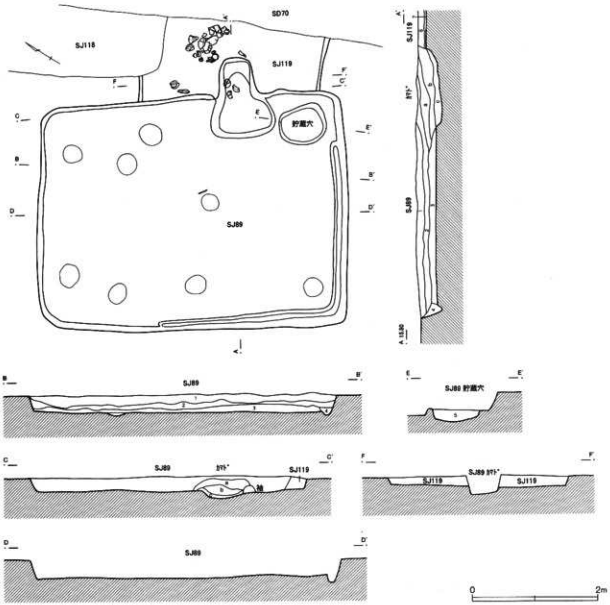
BI45・46、BJ45・46グリッドに位置し、重複する第44号掘立柱建物跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.85m×東西幅5.30m、主軸方位N—6.5°—Wを測る。覆土の堆積が

F区第89号住居跡出土遺物観察表（第158図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(17.7)	4.6		W針	B	灰	30	カマド 南比企産
2	蓋	(16.6)	(3.9)		W針	B	灰	20	南比企産
3	坏	11.7	3.6	5.9	WB針	B	灰	100	カマドNo.1・2 南比企産 底部糸切離し 自然釉付着 墨書「高」
4	坏	(11.3)	3.7	6.7	WB	B	灰	40	カマドNo.3 末野産 底部全面ヘラ
5	坏	(11.8)	4.0	(5.6)	WB針	B	灰	20	南比企産 底部周辺ヘラ
6	坏	11.8	3.7	5.4	B針	B	灰	95	No.1 南比企産 底部糸切離し
7	坏	(11.9)	3.6	6.4	WB針	B	灰	30	カマド 南比企産 底部糸切離し
8	坏	(12.6)	(3.3)		B針	B	灰	10	南比企産
9	坏	(11.4)	(2.6)		BR	B	橙	30	
10	坏	(11.6)	3.1		BR	B	橙	70	
11	甕	(24.0)	(2.7)		WB針	A	灰		南比企産
12	甕				WB	A	灰		末野産
13	甕				WB	A	灰		南比企産
14	甕				WB	A	灰		末野産
15	刀子								長さ17.6×幅1.6×厚さ0.35×重さ36.5g

第157図　F区第89・119号住居跡



第89・119号住居跡
第89号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒・炭化物ﾌﾞﾛｯｸ(15mm)少量　黄褐色土粒は、焼土粒・炭化物ﾌﾞﾛｯｸより多量　遺物はA－1・B－1出土
2　黒褐色土　炭化物ﾌﾞﾛｯｸ(15mm)少量　焼土ﾌﾞﾛｯｸ(10mm)を、炭化物ﾌﾞﾛｯｸより多量　黄褐色土粒多量　遺物はA－1・B－1が出土　新しい最終の貼り床
3　褐灰色土　黄褐色土粒・黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ(15mm大)極多量　遺物はA－2・B－2が出土　貼り床
4　黒褐色土　黄褐色土粒多量　焼土粒少量

第89号住居跡貯蔵穴
5　黒褐色土　黄褐色土粒少量
第89号住居跡カマド
a　黒褐色土　天井部・流入土混合　ｶﾏﾄﾞは住居跡炭絶時に壊された　黄褐色土・焼土粒混入
b　炭化物層　炭・焼土粒多量
c　黒褐色土　擬形充填　黄褐色土をﾌﾞﾛｯｸ状混入

薄く、埋没状況は明確ではない。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は地山が掘り残されている。燃焼部には灰層が形成されている。壁溝は全周し、幅0.11～0.26m、深さ0.06～0.11mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

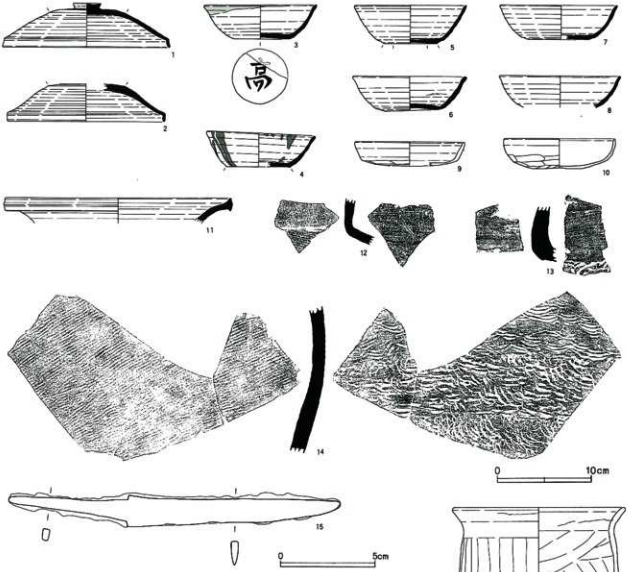
遺物は土師器坏、紡錘車が出土している。

第91号住居跡（第161・59図）

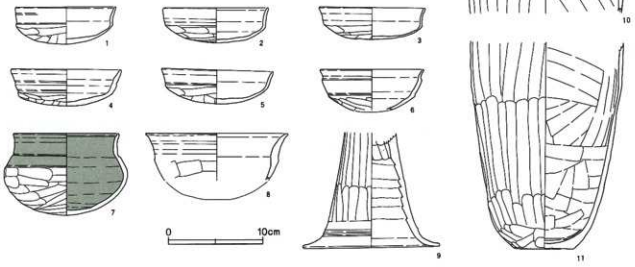
BK45・46グリッドに位置する。第51・78号溝跡と重複し、第5号茶毘跡よりも古い。

平面形態は方形であるが、南半部は大地震に伴う地

第158図　F区第89号住居跡出土遺物



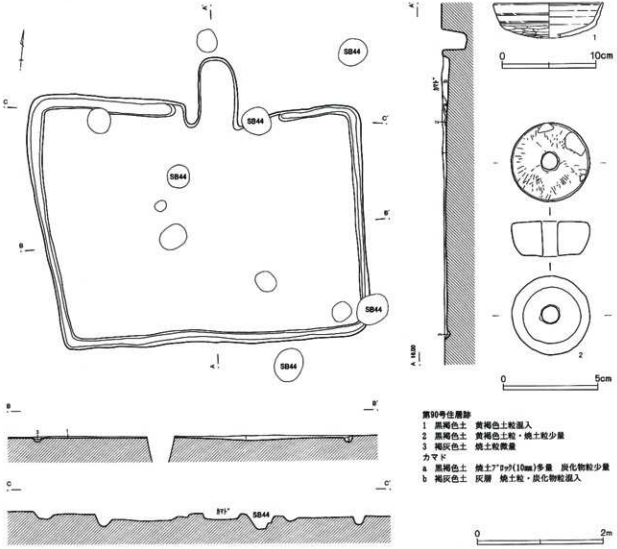
第159図　F区第119号住居跡出土遺物



F区第119号住居跡出土遺物観察表（第159図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	10.6	3.9		R	C	橙	80	No.6・11
2	坏	11.0	3.7		R	C	橙	95	
3	坏	11.2	3.8		R	C	にぶい黄橙	90	No.7
4	坏	11.6	3.9		WB	B	にぶい橙	90	No.10
5	坏	11.8	3.6		BR	C	橙	80	
6	坏	(10.8)	(4.3)		B	B	暗褐	15	No.5
7	椀	11.0	8.6		WBR	B	橙	90	No.1　赤彩
8	椀	(15.0)	(5.0)		BR	B	橙	10	
9	台付甕		(12.3)	14.4	BR	B	橙	70	No.3
10	甕	(18.0)	(13.9)		WB	B	橙	20	No.1・2
11	甕		(21.8)	6.1	W	B	橙	30	No.1・2　底部木葉痕

第160図　F区第90号住居跡・出土遺物



F区第90号住居跡出土遺物観察表（第160図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	(11.5)	(3.6)		BR	B	橙	60	
2	石製紡錘車								上径4.4×下径3.1×厚さ1.8×孔径0.9×重さ48.5g

滑りによって消失し、平面規模は不明である。深さ0.08m、南北軸方位N－27°－Wを測る。覆土の堆積は薄く、埋没状況は明確ではない。

カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されていない。2基の床下土壙が検出され、床下土壙Aから土師器甕片がまとまって出土している。床下土壙Aの規模は長径0.93m×短径0.80m×深さ0.14mの平面不整円形、床下土壙Bの規模は長径0.76m×短径0.67m×深さ0.13mの平面円形である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・高坏・坏片が出土している。

第92・93号住居跡（第162・163・164・55・59図）

BJ44・45、BK44・45グリッドに位置し、第51号溝跡と重複する。第92号住居跡と第93号住居跡の新旧関係は、遺構確認段階で両者とも既に床面が露呈しており、明確ではない。

第92号住居跡の平面形態は方形で、規模は主軸長4.22m、主軸方位N－29°－Wを測る。カマドは北壁中央に設置されている。燃焼部には多量の焼土・炭化物が堆積し、支脚が据えられている。壁溝はカマド東側を除いて全周し、幅0.14～0.22m、深さ0.07mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。2基の床下土壙が確認され、床下土壙Aは長径1.27m×短径1.25m×深さ0.20mの平面円形、床下土壙Bは長径1.54m×短径1.24m×深さ0.14mの平面楕形である。遺物は図示したほかに、須恵器蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

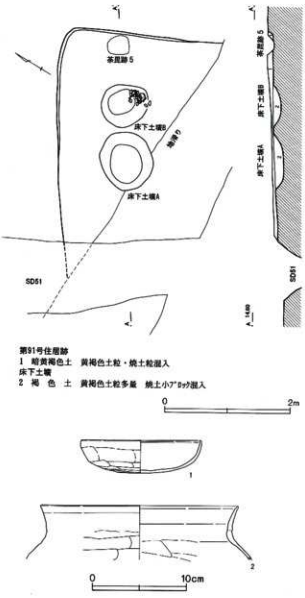
第93号住居跡は第351号土壙と重複する。平面形態は長方形で、規模は南北長4.24m×東西長5.65m、南北軸方位N－16.5°－Wを測る。南西コーナー部は大地震に伴う地滑りによって消失している。壁溝は南壁部では二重に巡り、拡張されている可能性が高い。基本的にはほぼ全周するものと思われ、幅0.13～0.28m、深さ0.08～0.16mほどである。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第94号住居跡（第165・55・56図）

BJ44、BK44グリッドに位置し、第51号溝跡と重複する。

平面形態は長方形で、拡張が行われている。拡張前の規模は主軸長4.64m×南北幅3.78m×深さ0.16m、拡張後は主軸長5.37m×南北幅4.48m×深さ0.10m、

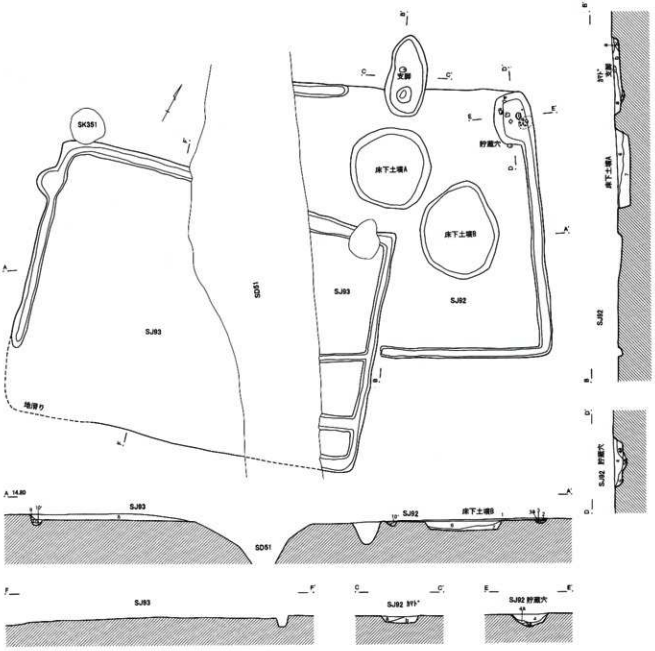
第161図　F区第91号住居跡・出土遺物



F区第91号住居跡出土遺物観察表（第161図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.6)	3.4		WBR	B	橙	60	
2	甕	(20.8)	(5.7)		BR	B	橙	5	

第162図　F区第92・93号住居跡



第92・93号住居跡

第92号住居跡

1　黒褐色土　黄褐色土粒多量　焼土粒混入

2　褐　色　土　黒色土主体　黄褐色土ブロック多量

3　黄褐色土　黄褐色土ブロック主体　黒色土混入　3aは黄褐色土ブロック少量

第92号住居跡貯蔵穴

4　黒　色　土　黄褐色土粒・焼土粒混入　遺物多量　4aは焼土ブロック含まない

5　黒褐色土　均質な層　5aは黄褐色土粒混入

第92号住居跡カマド

a　褐　色　土　黄褐色土粒多量　焼土ブロック混入

b　黒褐色土　黒色土主体　焼土ブロック・炭化物混入
　　bʹは混入物は認められない

c　黒　色　土　炭化物・焼土ブロック多量

第92号住居跡床下土壙

6　黒褐色土　黄褐色土粒・黄褐色土ブロック多量　焼土ブロック混入

7　暗黄褐色土　黄褐色土ブロック多量

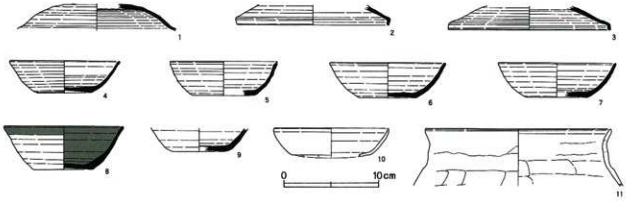
第93号住居跡

8　黒褐色土　黄褐色土粒・黄褐色土ブロック多量

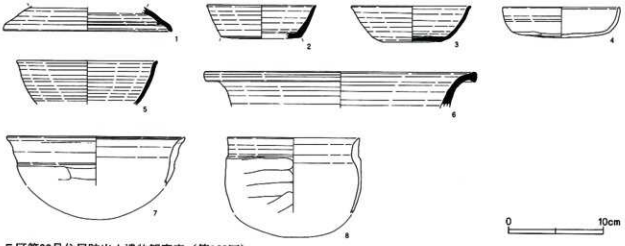
9　黒褐色土　黄褐色土粒極多量

10　暗黒褐色土　黄褐色土粒多量　黒色土ブロック状混入　10ʹは黄褐色土粒多量

第163図　F区第92号住居跡出土遺物



第164図　F区第93号住居跡出土遺物



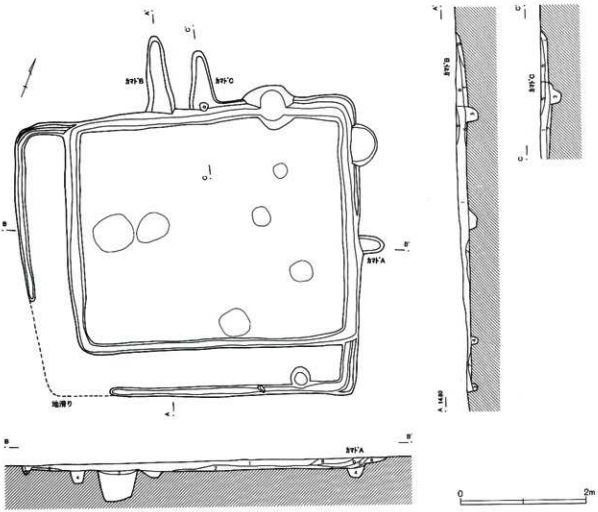
F区第92号住居跡出土遺物観察表（第163図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	蓋		(2.8)		W針	B	灰	15	南比企産
2	蓋	(16.0)	(2.1)		WB	A	灰	5	南比企産
3	蓋	(17.2)	(2.5)		WB針	B	灰白	10	No.4　南比企産
4	坏	(11.4)	3.9	5.7	B針	B	灰	40	No.8　南比企産 底部糸切離し
5	坏	(11.3)	3.6	(6.4)	WB針	A	灰白	10	南比企産
6	坏	(12.0)	3.7	(5.9)	WB針	B	灰	20	No.2・7　南比企産 底部糸切離し
7	坏	(12.3)	3.6	(6.5)	WB針	B	灰	40	No.1　南比企産 底部糸切離し
8	坏	(12.4)	4.6	6.2	BR針	C	黄褐	50	No.9　南比企産 黒色処理
9	坏		(2.4)	(5.4)	WBR針	C	黄橙褐	20	南比企産 底部糸切離し
10	坏	(12.0)	(3.0)		BR	B	にぶい黄褐	10	No.3
11	甕	(19.6)	(6.0)		WBR	B	にぶい黄褐	10	床下土壙A

F区第93号住居跡出土遺物観察表（第164図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	蓋	(17.8)	(2.5)		WB針	A	灰	5	南比企産
2	坏	(11.5)	3.5	(8.5)	WB針	A	灰	10	南比企産
3	坏	12.4	3.7	6.2	WB針	B	灰	80	南比企産 底部糸切離し
4	坏	(12.2)	3.2		BR	B	橙	70	
5	椀	(15.0)	(4.6)		WB針	A	灰	10	南比企産
6	甕	(28.6)	(3.8)		WB	A	灰		南比企産
7	鉢	(18.8)	(5.2)		WBR	B	橙	5	
8	鉢	(13.8)	(7.9)		B	B	黄褐	20	

第165図　F区第94号住居跡・出土遺物

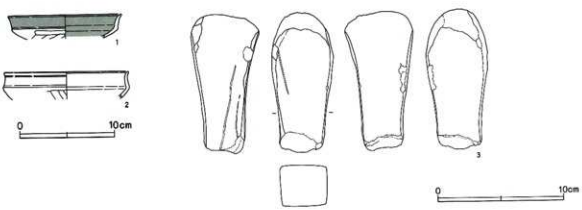


第94号住居跡

1　暗 褐 色 土　黄褐色土粒(2～5mm)少量
2　灰黄褐色土　床面　黄褐色土ブロック(2～10mm)多量
3　にぶ黄褐色土　黄褐色土粒(2～5mm)多量　砂質
4　灰黄褐色土　黄褐色土粒(2～8mm)多量　砂質
5　黒 褐 色 土　焼土粒少量
6　暗 褐 色 土　床面　北側左側カマドを埋める際の床面
　　黄褐色土粒(2～8mm)多量

カマド

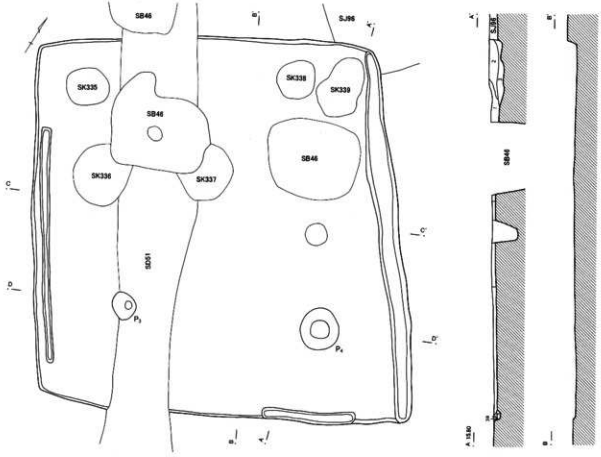
a　暗 褐 色 土　黄褐色土粒若干
b　暗 褐 色 土　黄褐色土粒(2～5mm)・焼土粒(2～8mm)若干
c　黒 褐 色 土　燃焼部　焼土ブロック(2～20mm)・灰多量
d　灰黄褐色土　層形　黄褐色土ブロック(5～20mm)多量
e　黒 褐 色 土　焼土粒(2～20mm)・黄褐色土粒(2～5mm)多量
f　暗 褐 色 土　層形　黄褐色土粒(2～10mm)若干　砂質
g　にぶ黄褐色土　層形　黄褐色土多量　砂質
h　黒 褐 色 土　焼土粒(2～8mm)・黄褐色土粒(2～5mm)少量
　　灰若干　明確な燃焼部は、残っていない
i　にぶ黄褐色土　層形　黄褐色土多量　砂質



F区第94号住居跡出土遺物観察表（第165図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.9)	(2.6)		WBR	B	橙	5	赤彩
2	坏	(13.0)	(2.9)		WBR	B	橙	5	
3	紡石								長さ11.0×幅4.85×厚さ3.25×重さ330.8g

第166図　F区第95号住居跡・出土遺物

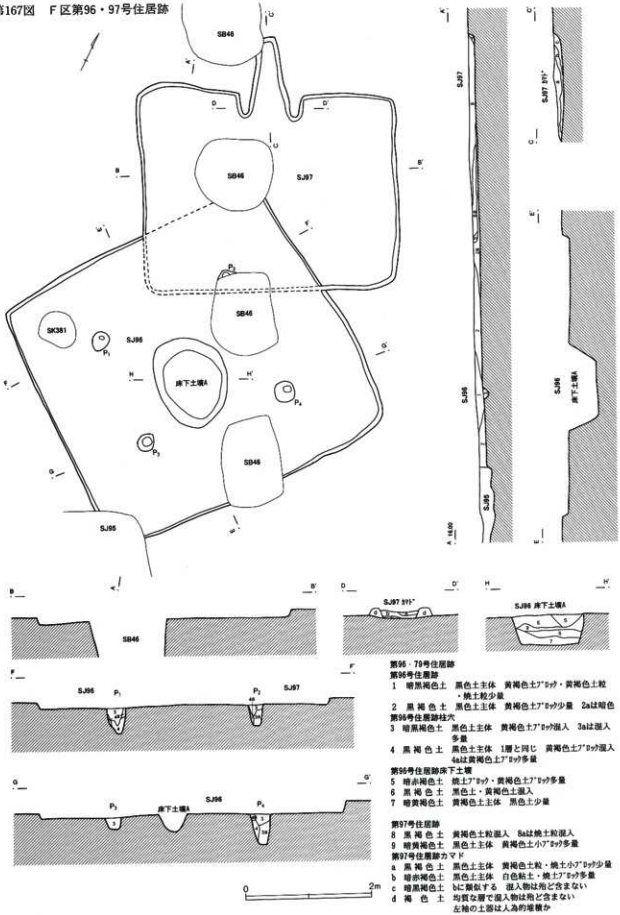


第95号住居跡
1 黒褐色土　黒色土主体　黄褐色土ブロック多量
2 暗黒褐色土　黒色土主体　黄褐色土ブロック・焼土粒混入
3 暗黄褐色土　黄褐色土ブロック主体　黒色土混入　3aは黄褐色土ブロック
柱穴
4 黒褐色土　黒色土主体　黄褐色土ブロック多量　4aは黄褐色土ブロック少量
5 黒色土　混入物無し
6 暗黄褐色土　黄褐色土ブロック多量　6aは黄褐色土ブロック主体
7 褐色土　黄褐色土ブロック・黒色土が横方向に固められている

F区第95号住居跡出土遺物観察表（第166図）

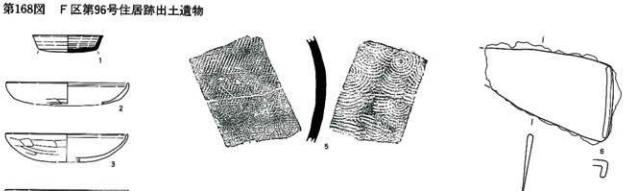
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.1)	3.0		WBR	A	橙	15	赤彩
2	坏	(12.4)	(3.3)		WB	A	橙	10	赤彩
3	坏	(13.7)	(4.6)		WBR	B	橙	40	

第167図　F区第96・97号住居跡



第96・79号住居跡
第96号住居跡
1　暗黒褐色土　黒色土主体　黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ・黄褐色土粒・焼土粒少量
2　黒褐色土　黒色土主体　黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ少量　2a比暗色
第96号住居跡柱穴
3　暗黒褐色土　黒色土主体　黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ混入　3a比混入多量
4　黒褐色土　黒色土主体　1層と同じ　黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ混入　4a比黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ多量
第96号住居跡床下土壙
5　暗赤褐色土　焼土ﾌﾟﾛｯｸ・黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ多量
6　黒褐色土　黒色土・黄褐色土混入
7　暗黄褐色土　黄褐色土主体　黒色土少量
第97号住居跡
8　黒褐色土　黄褐色土粒混入　8a比焼土粒混入
9　暗黄褐色土　黒色土主体　黄褐色土小ﾌﾟﾛｯｸ多量
第97号住居跡カマド
a　黒褐色土　黒色土主体　黄褐色土粒・焼土小ﾌﾟﾛｯｸ少量
b　暗赤褐色土　黒色土主体　白色粘土・焼土ﾌﾟﾛｯｸ多量
c　暗黒褐色土　bに類似する　混入物は炭ど含まない
d　褐色土　均質な層で混入物は炭ど含まない　左袖の土器は人為的堆積か

第168図　F区第96号住居跡出土遺物



第169図　F区第97号住居跡出土遺物

F区第96号住居跡出土遺物観察表（第168図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(7.4)	1.8	(6.2)	WB	B	灰白	50	末野産 底部全面ヘラ
2	坏	(12.8)	(2.3)		WB	B	橙	5	
3	坏	(12.8)	(3.0)		BR	B	橙	5	
4	坏	(12.8)	4.4		WB	B	橙	20	
5	甕				WBR	B	灰白		末野産
6	鎌								長さ6.8×幅4.1×厚さ0.25×重さ34.1g

F区第97号住居跡出土遺物観察表（第169図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(16.9)	(1.4)		WB針	A	灰	5	南比企産
2	坏	(12.9)	(3.6)		WB針	B	灰	5	南比企産

主軸方位はN－65.5°－Eを測る。南西コーナー部は大地震に伴う地滑りによって消失している。

カマドは北壁中央に2基、東壁中央に1基検出されている。北壁東側のカマドCは拡張前のもので、拡張に伴って北壁西側のカマドBが構築され、さらに東壁中央のカマドAに造り替えられている。壁溝は拡張前後とも全周し、幅0.12～0.25m、深さ0.15～0.17mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

第95号住居跡（第166・55図）

BI44・45、BJ44・45グリッドに位置する。第46号掘立柱建物跡、第335・336・337・338・339号土壙、第51号溝跡と重複し、第96号住居跡よりも新しい。

平面形態は方形で、規模は南北長5.97m×東西長5.94m×深さ0.14m、南北軸方位N－33°－Wを測る。

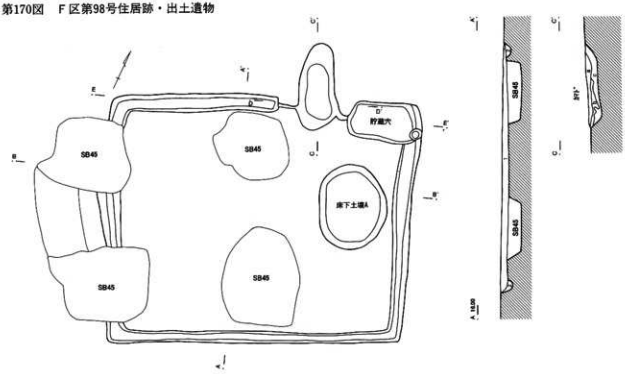
カマド・貯蔵穴は確認されていない。柱穴は2本検出され、柱は抜き取られているが、一部柱痕が残存している。柱掘形最下層には柱根固めとして褐色土を敷き詰め、暗黄褐色土を充填している。壁溝は東壁・西壁・南壁の一部に巡り、幅0.20～0.42m、深さ0.11～0.18mほどである。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第96号住居跡（第167・168・55図）

BI44・45グリッドに位置する。第46号掘立柱建物

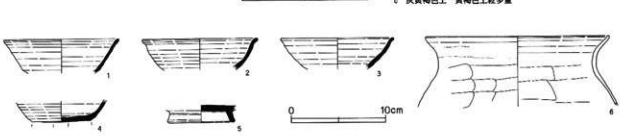
第170図　F区第98号住居跡・出土遺物



第98号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色土粒多量　焼土粒少量
2　黒褐色土　黄褐色土粒・黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ(15cm)・焼土粒少量

貯蔵穴
3　褐灰色土　黄褐色土粒多量　焼土粒少量
4　黒褐色土　炭化物ﾌﾞﾛｯｸ(10mm)少量　黄褐色土粒・黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ(10mm)多量

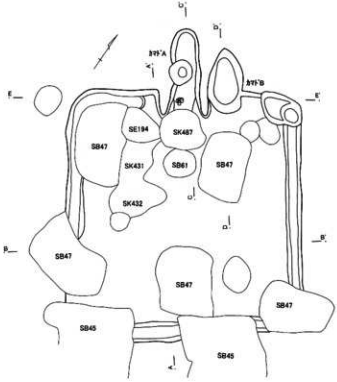
カマド
a　暗褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ(10mm)・炭化物粒少量　焼土粒多量
b　褐灰色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ(10mm大)・焼土粒少量
c　灰黄褐色土　黄褐色土粒多量

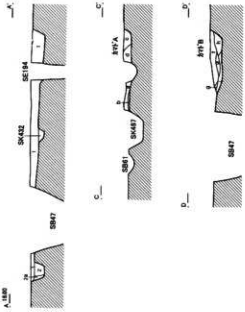


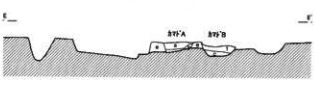
F区第98号住居跡出土遺物観察表（第170図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.2)	(3.6)		WBR 針	B	灰白	20	南比企産
2	坏	(12.2)	(3.3)		WB 針	A	灰	10	南比企産
3	坏	(12.0)	(3.3)		WB 針	A	灰	10	南比企産
4	坏		(2.2)	6.2	WB 針	B	灰	25	南比企産　底部周辺ヘラ
5	高台付坏		(1.8)	(7.2)	WBR 針	B	灰	5	南比企産　貼付高台
6	甕	(19.2)	(7.4)		WB	B	にぶい橙	10	床下土壙A　カマド

第171図　F区第99号住居跡・出土遺物







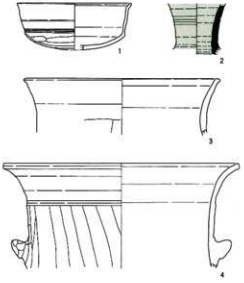
第99号住居跡

1	黒褐色土	黒色土主体　黄褐色土小ﾌﾞﾛｯｸ混入
2	暗黒褐色土	2aはより暗く、黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ粒も小さい

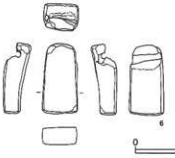
カマド

a	黒色土	黄褐色土粒・焼土粒微量
b	暗褐色土	黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ多量
c	暗黒褐色土	黄褐色土粒微量　焼土ﾌﾞﾛｯｸ少量
d	暗黄褐色土	黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ主体　黒色土混入
e	黄褐色土	黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ主体　黒色土・焼土粒混入
f	黒色土	黄褐色土小ﾌﾞﾛｯｸ・焼土粒少量
g	暗褐色土	黄褐色土小ﾌﾞﾛｯｸ・黒色土多量
h	褐色土	gと類似する　黄褐色土小ﾌﾞﾛｯｸ多量　明るい色調
i	暗黄褐色土	黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ主体　黒色土混入

0　2m



0　10cm

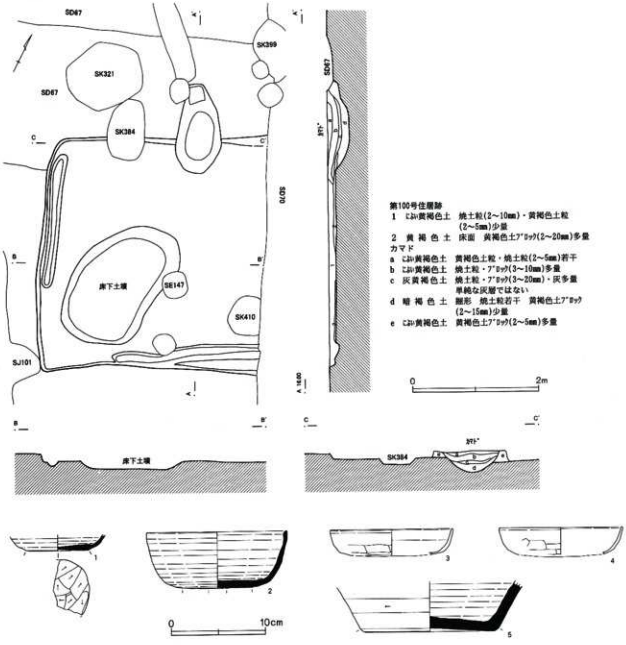


0　10cm

F区第99号住居跡出土遺物観察表（第171図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	坏	(12.0)	(4.9)		B	B	によい橙	40	No.1
2	長頸壺		(5.8)		WB	A	灰白		群馬産？ 内外面自然釉付着
3	甕	(20.0)	(6.0)		BR	B	橙	10	カマド
4	甑	(24.7)	(11.1)		WBR	B	によい黄褐	20	
5	甕				WB	A	灰		
6	砥石								長さ5.5×幅2.75×厚さ1.35×重さ34.8g

第172図　F区第100号住居跡・出土遺物



跡、第381号土壙と重複し、第95･97号住居跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は南北長4.88m×東西長4.42m×深さ0.18m、南北軸方位N－7°－Eを測る。

カマド・壁溝・貯蔵穴は確認されていない。柱穴は4本で、柱は抜き取られている。中央部には床下土壙

が検出され、長径1.44m×短径1.12m×深さ0.47mの平面不整円形である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片、編物石、軽石が出土している。

第97号住居跡（第167・169・55図）

BI44・45グリッドに位置する。第46号掘立柱建物跡と重複し、第96号住居跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.09m×東西幅4.10m×深さ0.11m、主軸方位N−29.5°−Wを測る。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は褐色土によって造り付けられている。燃焼部から煙道部にかけては、焼土およびカマド構築材の白色粘土が堆積している。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第98号住居跡（第170・59図）

BI46グリッドに位置し、重複する第45号掘立柱建物跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.93m×東西幅5.00m×深さ0.11m、主軸方位N−26°−Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマドは北壁中央東よりに設置されている。燃焼部は住居跡外方に張り出し、多量の焼土が堆積している。壁溝はほぼ全周し、幅0.15〜0.36m、深さ0.12〜0.19mほどである。貯蔵穴は北東コーナーに付設され、長径1.09m×短径0.64m×深さ0.10mの平面長方形である。柱穴は確認されていない。東壁中央際から床下土壙が検出され、長径1.33m×短径1.07m×深さ0.21mの平面隅丸方形である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第99号住居跡（第171・59図）

BG45・46、BH45・46グリッドに位置し、第45・47・61号掘立柱建物跡、第431・432・487号土壙と重複する。

平面形態は方形で、規模は主軸長3.96m×東西幅3.47m×深さ0.15m、主軸方位N−34.5°−Wを測る。

カマドは、住居構築段階に北壁中央東よりのカマドBが設置され、北壁中央のカマドAへ造り替えられている。カマドAは袖部が黄褐色土によって造り付けられ、支脚が据えられている。壁溝はほぼ全周し、幅0.22〜0.28m、深さ0.19〜0.22mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第100号住居跡（第172・59図）

BF45・46、BG45・46グリッドに位置する。第384・410号土壙、第147号井戸跡、第67・70号溝跡と重複し、第101号住居跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.63m×深さ0.12m、主軸方位N−25.5°−Wを測る。東壁付近は第70号溝によって攪乱されている。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

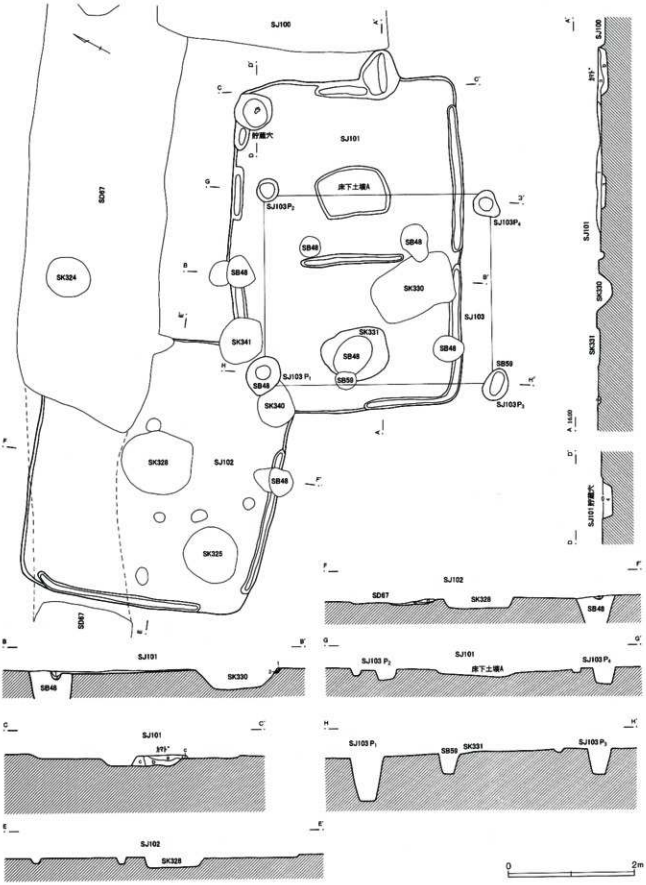
カマドは北壁に設置されている。燃焼部が住居外方に張り出し、灰層が形成されている。袖部はにぶい黄褐色土によって造り付けられている。壁溝は西壁と南壁の一部に巡り、幅0.17〜0.25m、深さ0.15〜0.18mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。南西部には床下土壙が付設され、長径2.23m×短径1.14m×深さ0.13mの平面楕円形である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

F区第100号住居跡出土遺物観察表（第172図）

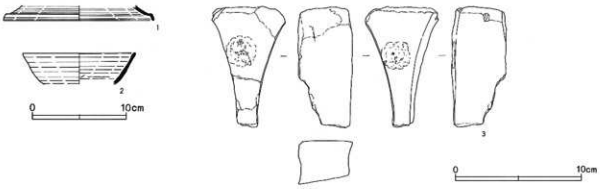
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏		(1.7)	(6.6)	WB 針	A	灰	10	南比企産 底部全面ヘラ 底部内面擦痕
2	椀	(14.8)	6.0	(7.4)	WR 針	A	灰	25	カマド 南比企産 底部周辺ヘラ
3	坏	(13.0)	(2.7)		WBR	B	にぶい黄橙	5	
4	坏	(13.0)	(2.8)		WBR	B	にぶい黄橙	5	カマド
5	甕		(5.3)	(14.0)	WR	A	灰	5	末野産 底部全面ヘラ

第173図　F区第101・102・103号住居跡



第101号住居跡
1 暗 褐 色 土　黄褐色土粒・赤色粒少量
2 黒 褐 色 土　黄褐色土粒少量
3 黒 褐 色 土　黄褐色土粒・赤色粒多量
第101号住居跡貯蔵穴
4 黒 褐 色 土　黄褐色土ブロック(10mm)少量　遺物混入
第101号住居跡カマド
a 黒 褐 色 土　焼土粒多量
b 褐 灰 色 土　黄褐色土粒極多量
c　　袖
第102号住居跡
5 黒 褐 色 土　壁溝　黄褐色土粒少量
第102号住居跡カマド
d 黒 褐 色 土　黄褐色土粒少量　白色土粒微量
e 灰黄褐色土　灰色ﾛﾑ質粒混入　白色土粒微量

第174図　F区第101号住居跡出土遺物



F区第101号住居跡出土遺物観察表（第174図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	壷	(15.9)	(1.6)		WB針	B	灰	5	南比企産
2	坏	(12.0)	(3.3)		WB針	B	灰	5	南比企産
3	砥石								No.1　長さ9.5×幅4.2×厚さ3.2×重さ203.5g

第101号住居跡（第173・174・55・59図）

BG45グリッドに位置する。第103号住居跡、第48・59号掘立柱建物跡、第330・331・340・341号土壙と重複し、第100・102号住居跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長5.20m×南北幅3.70m、主軸方位N―62°―Eを測る。遺構確認段階で既に床面が露呈し、埋没状況は明確ではない。

カマドは東壁中央南よりに、燃焼部の残痕が確認されている。壁溝は途切れ途切れに全周し、幅0.12～0.19m、深さ0.04～0.11mほどである。住居跡中央部には溝状の落ち込みが南北方向に認められ、拡張が行われている可能性がある。貯蔵穴は北東コーナーに付設され、長径0.60m×短径0.57m×深さ0.14mの平面不整円形である。柱穴は検出されていない。住居中央に床下土壙が掘り込まれ、長径1.13m×短径0.79m×深さ0.07mの平面長方形である。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片、磁器片が出土している。

第102号住居跡（第173・55図）

BG44・45グリッドに位置し、第101・103号住居跡、第325・328・340・341号土壙と重複する。第67号溝跡よりも古く、第48号掘立柱建物跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は南北長3.92m×東西長4.26m、南北軸方位N―17.5°―Wを測る。遺構確認段階で床面が一部露呈し、埋没状況は明確ではない。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は南壁・西壁に巡り、幅0.12～0.16m、深さ0.08mほどである。

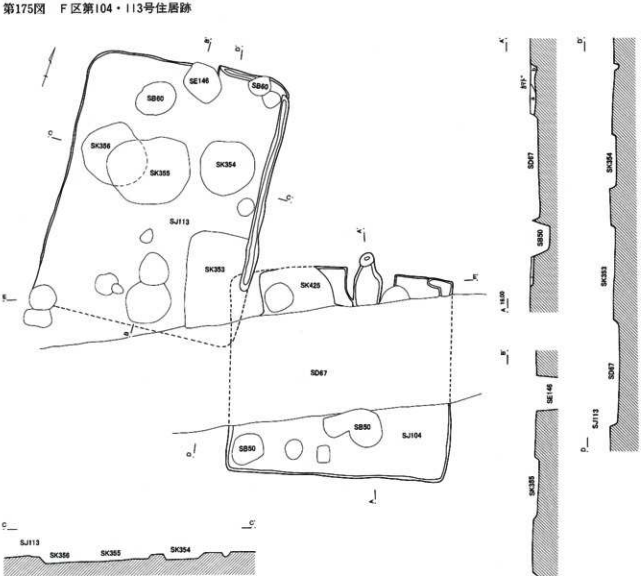
遺物は図示し得ないが、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第103号住居跡（第173・55図）

BG45グリッドに位置する。1間×1間の4本の柱穴のみが検出された。第101・102号住居跡と重複する。

遺物は出土していない。

第175図　F区第104・113号住居跡



第104・113号住居跡
第104号住居跡
1　黄褐色土　黄褐色土ﾌﾟﾛｯｸ(10mm)少量
第104号住居跡カマド
a　灰黄色土　焼土ﾌﾟﾛｯｸ(10mm)・黄褐色土粒極多量
b　灰黄色土　上層より明るい　焼土ﾌﾟﾛｯｸ(10mm)少量
黄褐色土粒極多量

第113号住居跡
2　暗褐色土　壁溝　黄褐色土粒多量

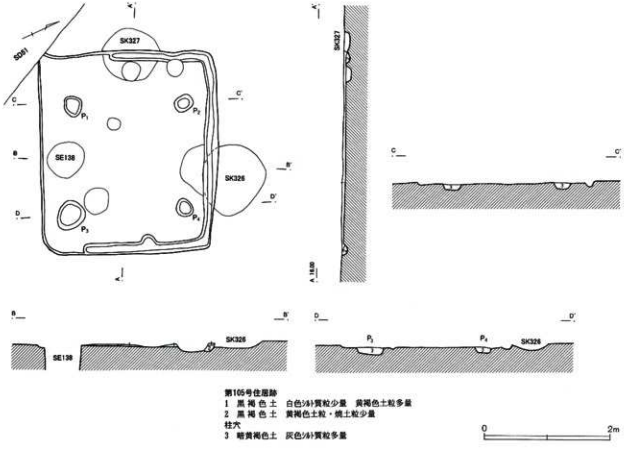
第104号住居跡（第175・55図）

BG44グリッドに位置する。第113号住居跡、第353・425号土壙と重複し、第50号掘立柱建物跡、第67号溝跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は主軸長3.30m×東西幅3.53m、主軸方位N－17°－Wを測る。遺構確認段階で床面が一部露呈し、埋没状況は明確ではない。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は地山が掘り残

第176図　F区第105号住居跡



されている。燃焼部は第67号溝跡に攪乱されているが、焼土が堆積している。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は出土していない。

第113号住居跡（第175・55図）

BG43・44グリッドに位置する。第104号住居跡よりも古く、第60号掘立柱建物跡、第353・354・355・356号土壙、第146号井戸跡、第67号溝跡と重複する。

平面形態は長方形で、規模は南北長（4.23）m×東西長3.22m、南北軸方位N－3°－Wを測る。遺構確認段階で床面が一部露呈し、埋没状況は明確ではない。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝が北壁東半～東壁に巡り、幅0.10～0.18m、深さ0.07mほどである。

遺物は図示し得ないが、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第105号住居跡（第176・55図）

BH43・44グリッドに位置し、重複する第326・327号土壙、第138号井戸跡、第51号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は南北長2.83m×東西長3.20m、南北軸方位N－26°－Eを測る。遺構確認段階で床面が一部露呈し、埋没状況は明確ではない。

カマド・貯蔵穴は確認されていない。4本の柱穴はいずれも浅い。壁溝は西壁中央～北壁～東壁中央付近に巡り、幅0.14～0.23m、深さ0.08～0.10mほどである。

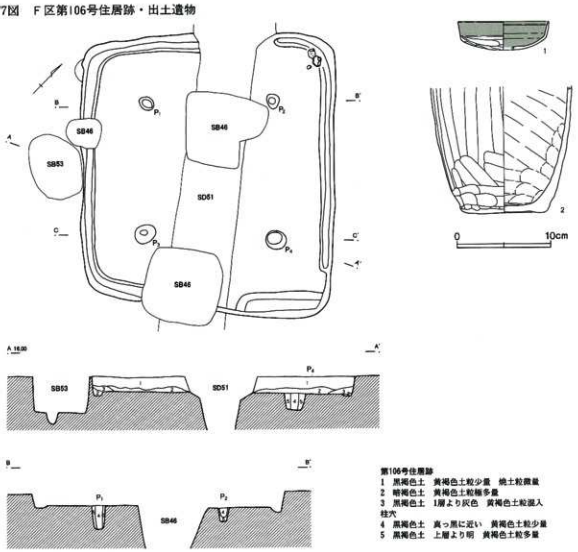
遺物は図示し得ないが、土師器甕片が出土している。

第106号住居跡（第177・55図）

BI44グリッドに位置し、重複する第46号掘立柱建物跡、第51号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は南北長4.48m×東西長4.02m×深さ0.27m、南北軸方位N－43°－Wを測る。

第177図　F区第106号住居跡・出土遺物



F区第106号住居跡出土遺物観察表（第177図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	9.6	(3.0)		WBR	B	赤褐	70	赤彩
2	甕		(13.2)	9.1	WB	B	にぶい橙	30	№2・3　底部木葉痕

覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマド・貯蔵穴は確認されていない。柱穴は4本検出され、柱痕が残存している。壁溝はほぼ全周し、幅0.20～0.26m、深さ0.22～0.31mほどである。

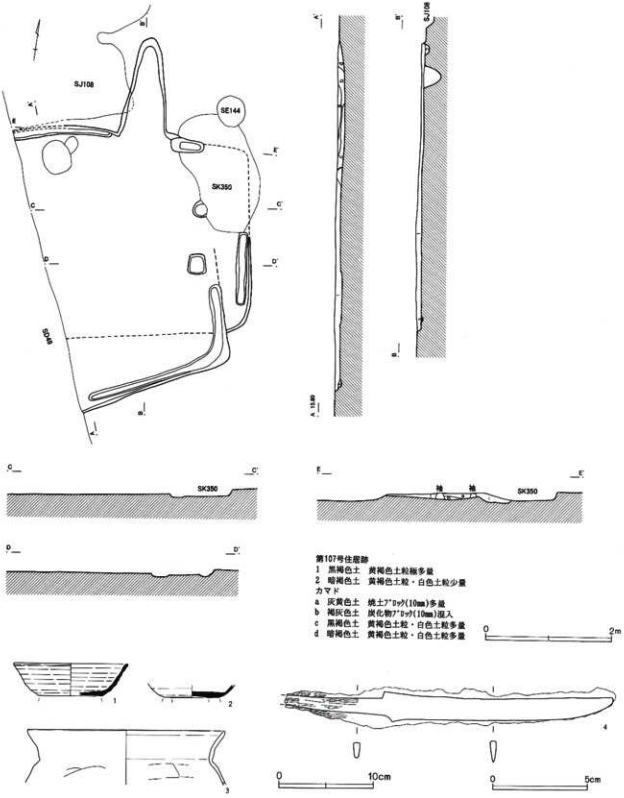
遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第107号住居跡（第178・55図）

BG43、BH42・43グリッドに位置する。第350号土壙、第49号溝跡と重複し、第108号住居跡よりも古い。

平面形態からは重複する2軒の住居跡と捉えられるが、覆土の断面観察からは確認できなかった。規模は主軸長4.30m×深さ0.06m、主軸方位N－8°－Wを

第178図　F区第107号住居跡・出土遺物



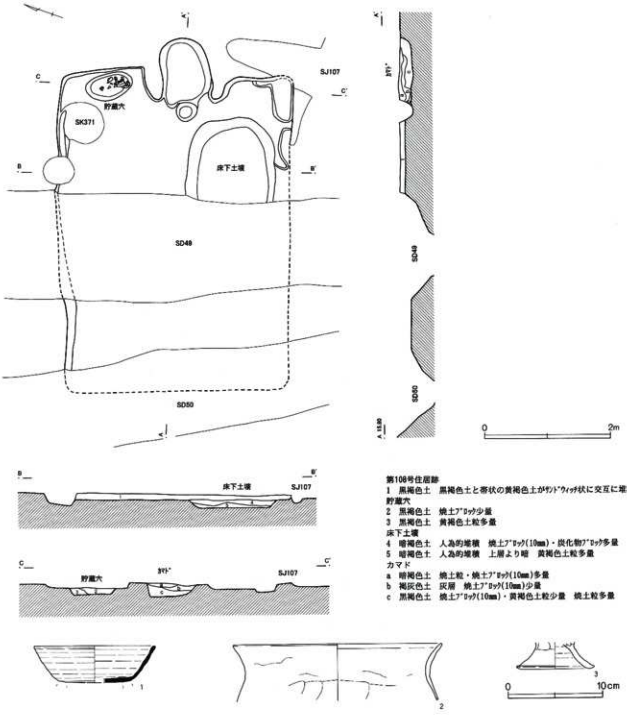
測る。西壁付近は第49号溝跡によって攪乱されている。

カマドは北壁中央東よりに設置され、袖部は造り付けられている。煙道部が長く外方に延びている。壁溝は幅0.10～0.16m、深さ0.09～0.12mほどである。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。

F区第107号住居跡出土遺物観察表（第178図）

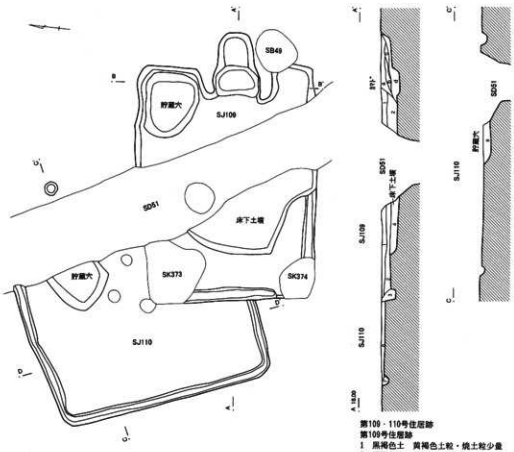
番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	坏	(12.0)	3.5	6.6	WB 針	A	灰	30	カマド 南比企産 底部全面ヘラ
2	坏		(1.3)	8.0	W針	B	灰	30	南比企産 底部周辺ヘラ
3	甕	(20.8)	(5.7)		WB	B	橙	5	
4	刀子								No.1 長さ17.4×幅1.5×厚さ0.3×重さ38.5g

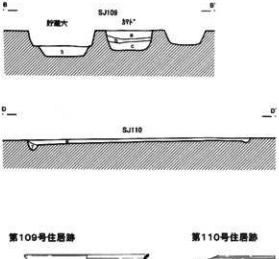
第179図　F区第108号住居跡・出土遺物



遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏　　片が出土している。

第180図　F区第109・110号住居跡・出土遺物



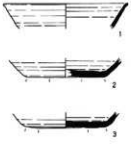


第109・110号住居跡
第109号住居跡
1　黒褐色土　黄褐色土粒・焼土粒少量
2　黒褐色土　黄褐色土粒多量
3　黒褐色土　上層より暗　黄褐色土ブロック(10mm)少量
第109号住居跡床下土壙
4　黒褐色土　1層より暗　炭化物ブロック(10mm)・
　　焼土粒・黄褐色土粒少量
第109号住居跡貯蔵穴
5　黒褐色土　黄褐色土粒微量
第109号住居跡カマド
a　黒褐色土　焼土粒少量　黄褐色土粒多量
b　暗褐色土　a層より焼土ブロック(10mm)多量
c　褐灰色土　灰層　焼土粒少量
d　黒褐色土　黄褐色土粒多量

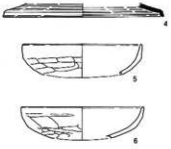
第110号住居跡
6　暗褐色土　黄褐色土粒少量
7　黒褐色土　黄褐色土粒多量
第110号住居跡貯蔵穴
8　黒褐色土　黄褐色土粒微量

0　2m

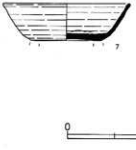
第109号住居跡



第110号住居跡



第109・110号住居跡



0　10cm

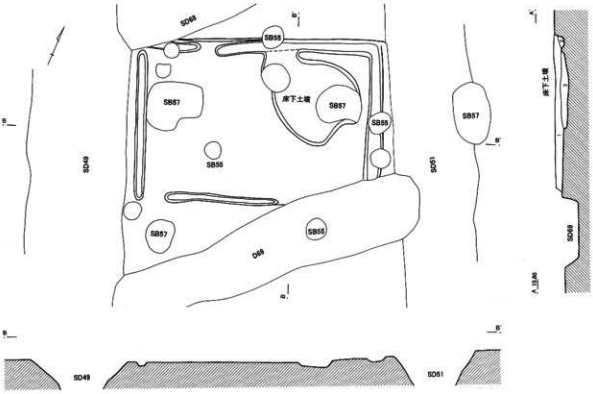
F区第108号住居跡出土遺物観察表（第179図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	(12.8)	4.0	(7.7)	WB 針	A	灰	20	南比企産 底部周辺ヘラ
2	甕	(22.0)	(6.0)		WBR	B	橙	5	№10
3	台付甕		(2.8)	(8.2)	WB	B	橙	5	№12

F区第109・110号住居跡出土遺物観察表（第180図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	(13.0)	(2.7)		W針	B	灰	5	SJ109 南比企産
2	坏		(2.1)	(8.1)	W針	B	にぶい黄褐	15	SJ109 南比企産 底部周辺ヘラ
3	坏		(1.6)	(8.4)	W針	B	灰	25	SJ109 南比企産 底部周辺ヘラ 底部内面擦痕 転用硯か？
4	蓋	(17.0)	(1.4)		WB	A	灰	5	SJ110 末野産
5	坏	(12.4)	(3.2)		WB	B	橙	10	SJ110
6	坏	(12.8)	(3.3)		WB	B	橙	15	SJ110
7	坏	(13.4)	3.9	(7.6)	WBR 針	B	灰白	30	SJ109・110 南比企産 底部周辺ヘラ

第181図　F区第111号住居跡・出土遺物



第111号住居跡
1　黒褐色土　黄褐色土粒・ブロック状に固まった鉄分多量
2　黒褐色土　壁溝　焼土粒少量
床下土壙
3　黒褐色土　黄褐色土粒・焼土粒少量

F区第111号住居跡出土遺物観察表（第181図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	盤	(20.8)	(1.6)		BR	B	橙	5	

第108号住居跡（第179・55図

BG42・43、BH42・43グリッドに位置する。第371号土壙、第49号溝跡と重複し、第107号住居跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長（5.05）m×南北幅3.72m×深さ0.06m、主軸方位N－73.5°－Eを

測る。

カマドは東壁中央に設置され、灰層が堆積している。貯蔵穴は北東コーナー部に付設され、長径0.76m、短径0.41m、深さ0.10mの平面楕円形である。遺物が集中している。柱穴は確認されていない。床下土壙が南東半に検出され、短径1.43m×深さ0.12mの平面隅丸長方形である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第109号住居跡（第180・55図）

BH43・44グリッドに位置する。第49号掘立柱建物跡、第373・374号土壙、第51号溝跡と重複し、第110号住居跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.70m×南北幅2.88m×深さ0.15m、主軸方位N−83.5°−Eを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマドは東壁中央に設置され、袖部は地山が掘り残されている。燃焼部は浅い掘り込みをもち、灰層・焼土層が堆積している。天井部は残存していない。柱穴は検出されていない。壁溝は西壁・南壁に巡り、幅0.16～0.20m、深さ0.22mほどである。貯蔵穴は北東コーナーに付設され、長径1.04m×短径0.83m×深さ0.16mの平面不整方形である。中央部には床下土壙が検出されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第110号住居跡（第180・55図）

BH43グリッドに位置し、重複する第109号住居跡、第51号溝跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は南北長3.57m×深さ0.08m、南北軸方位N−26°−Wを測る。埋没状況は明確ではない。

カマド・柱穴は検出されていない。壁溝はほぼ全周し、幅0.12～0.16m、深さ0.11～0.15mほどである。貯蔵穴は北東コーナー付近に付設され、短径0.85m×深さ0.12mの平面長方形である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第111号住居跡（第181・55図）

BF42グリッドに位置する。第55・57号掘立柱建物跡、第49・51・68号溝跡と重複し、第69号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は南北長3.40m×東西長4.18m×深さ0.11m、南北軸方位N−18.5°−Wを測る。覆土の堆積状況は人為的に埋め戻されているようである。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は途切れ途切れに全周し、幅0.14～0.28m、深さ0.08～0.16mほどである。北東半に床下土壙が付設され、長径1.41m×短径1.35m×深さ0.12mの平面不整円形である。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第112号住居跡（第182・55図）

BG43グリッドに位置する。第344・362・366・367・368・369・370号土壙と重複し、第51号溝跡より古く、第114号住居跡より新しい。

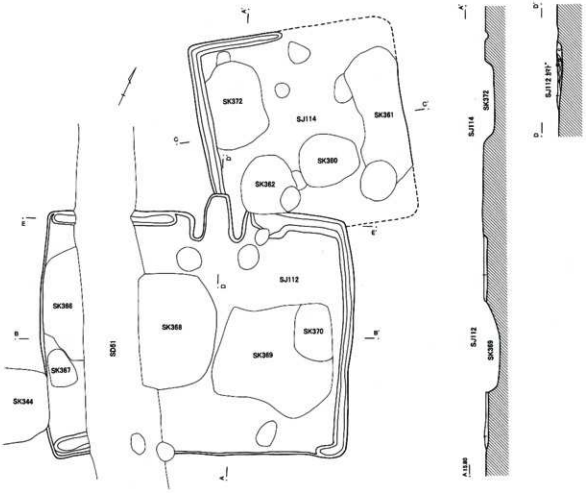
平面形態は長方形で、規模は主軸長3.82m×幅4.98m、主軸方位N−25°−Wを測る。貼床が施され、埋没状況は不明である。

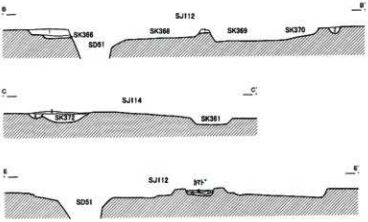
カマドは北壁中央に設置されている。西側の袖部は地山が掘り残され、東側は造り付けられている。燃焼部には灰層と多量の焼土粒が堆積している。壁溝は北壁～東壁・南壁南西コーナー部に巡り、幅0.14～0.25m、深さ0.09mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

F区第112・114号住居跡出土遺物観察表（第182図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甑				W針	A	灰黄褐		SJ112 南北企産
2	坏	(14.2)	(2.5)		B	B	にぶい黄橙	5	SJ114 SK360
3	坏	(14.8)	(3.0)		WBR	B	橙	5	SJ114 SK360

第182図　F区第112・114号住居跡・出土遺物



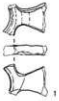


第112・114号住居跡
第112号住居跡
1　黄褐色土　床　若干黒褐色土ブロック(10mm)混入
2　黒褐色土　黄褐色土粒多量　焼土粒微量
第112号住居跡カマド
a　黒褐色土　黄褐色土粒・焼土粒多量
b　褐灰色土　灰層　焼土粒少量　黄褐色土粒多量
c　黒褐色土　黄褐色土粒多量

第114号住居跡
3　黒褐色土　黄褐色土粒・焼土粒少量
4　黒褐色土　黄褐色土粒少量

0　2m

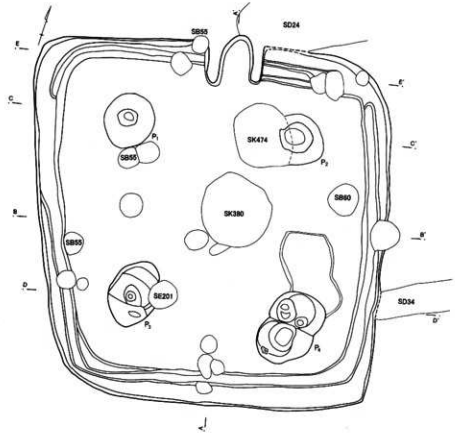
第112号住居跡

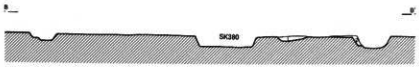


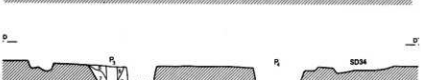
第114号住居跡

0　10cm

第183図　F区第115号住居跡・出土遺物



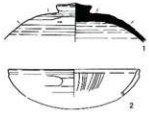




0　2m

0　10cm

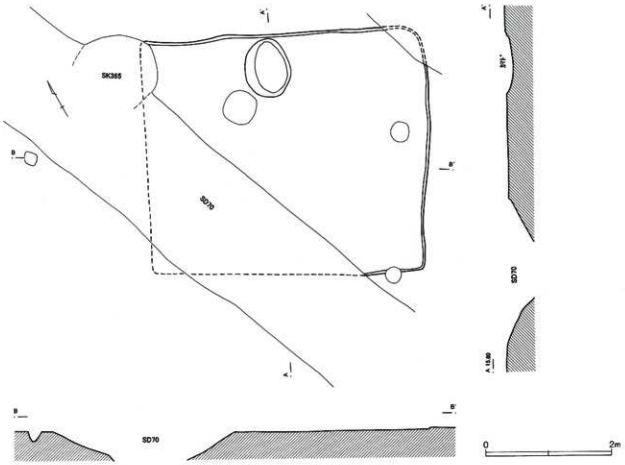
第115号住居跡
1　黒褐色土　黄褐色土粒多量
2　褐灰色土　黄褐色土粒多量
柱穴
3　黒褐色土　黄褐色土粒多量　黄褐色土ブロック(10mm)・焼土粒少量
4　黄褐色土　黒褐色土ブロック(10mm)少量　黒褐色土粒多量
5　黒褐色土　黄褐色土粒多量　焼土粒微量
6　黒褐色土　黄褐色土を極多量
7　黒褐色土　黄褐色土粒多量
8　黄褐色土　黄褐色土主体　黒褐色土ブロック(10mm)少量
カマド
a　黒褐色土　焼土ブロック多量　黄褐色土粒少量
b　褐灰色土　灰層　炭化物粒少量
c　暗褐色土　焼土粒少量



F区第115号住居跡出土遺物観察表（第183図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	蓋		(4.1)		WB 針	A	灰	25	No.1 南比企産
2	坏	(13.9)	(2.9)		WB	B	橙	5	P 9
3	小型甕	(13.8)	(6.4)		WB	B	暗褐	10	P 4

第184図　F区第116号住居跡



遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第114号住居跡（第182・55図）

BF43、BG43グリッドに位置する。第360・361・362・372号土壙と重複し、第112号住居跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は南北長3.22m×東西長3.22m、南北軸方位N－37°－Wを測る。遺構確認段階で既に一部の床面が削平され、埋没状況は明確ではない。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は北壁西半～西壁に巡り、幅0.15～0.24m、深さ0.04～0.09mほどである。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

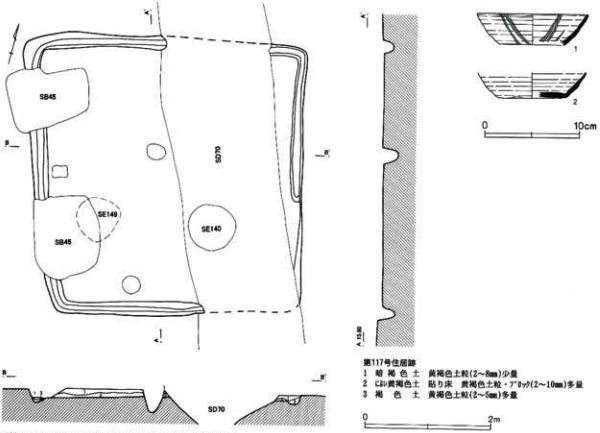
第115号住居跡（第183・55図）

BF43、BG43グリッドに位置する。第60号掘立柱建物跡、第380号土壙、第201号井戸跡、第24・34号溝跡と重複し、第55号掘立柱建物跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は南北長5.72m×東西長5.56m、南北軸方位N－12.5°－Wを測る。遺構確認段階で既に一部の床面が露呈し、埋没状況は明確ではない。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は地山が張り残されている。燃焼部には灰層・焼土層が堆積している。

第185図　F区第117号住居跡・出土遺物



F区第117号住居跡出土遺物観察表（第185図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	(11.8)	3.2	(7.0)	WB 針	B	灰	20	南比企産 火だすき痕
2	坏		(2.7)	(7.0)	WB 針	A	灰	10	南比企産

柱穴は4本検出され、柱痕がみられる。柱掘形は円形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。壁溝はほぼ全周し、幅0.22～0.28m、深さ0.13～0.18mほどである。貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第116号住居跡（第184・59図）

BG46・47、BH46グリッドに位置する。第70号溝跡と重複し、第365号土壙よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.78m×東西幅4.50m、主軸方位N－24°－Eを測る。方形に確認された掘形のみの調査で、埋没状況は不明である。

北壁中央付近に焼土粒を多く混入するにぶい黄褐色土の土壙状の落ち込みが確認され、カマドの掘形と思われる。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示し得ないが、土師器甕・坏片が出土している。

第117号住居跡（第185・59図）

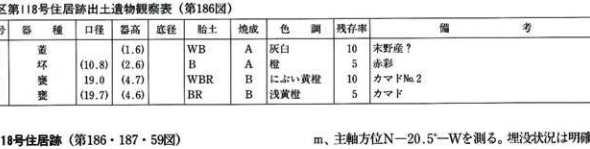
BH46グリッドに位置し、第45号掘立柱建物跡、第140・149号井戸跡、第70号溝跡と重複する。

平面形態は方形で、規模は南北長4.43m×東西長4.28m×深さ0.14m、南北軸方位N－18°－Wを測る。埋没状況は明確ではないが、床面には貼床が施されている。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は南東コーナー付近を除き全周し、幅0.16～0.25m、深さ0.14～0.28mほどである。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第186図　F区第118号住居跡出土遺物



F区第118号住居跡出土遺物観察表（第186図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.6)		WB	A	灰白	10	末野産？
2	坏	(10.8)	(2.6)		B	A	橙	5	赤彩
3	甕	19.0	(4.7)		WBR	B	にぶい黄橙	10	カマド№2
4	甕	(19.7)	(4.6)		BR	B	浅黄橙	5	カマド

第118号住居跡（第186・187・59図）

BH47、BI46・47グリッドに位置し、第45号掘立柱建物跡、第397号土壙と重複する。第120号住居跡、第70号溝跡、第141・143号井戸跡、第396号土壙よりも古く、第119号住居跡よりも新しい。

平面形態は方形で、規模は主軸長7.43m、主軸方位N－26°－Wを測る。東壁付近は発掘調査の進捗状況の関係から、削平してしまった。埋没状況は明確ではないが、床面には貼床が施されている。

カマドは北壁中央に設置され、土師器甕を芯材とした袖部が造り付けられている。燃焼部は浅い掘り込みをもつ。覆土の状態から、カマドは人為的に破壊されているようである。柱穴は4本検出され、柱痕がみられる。柱掘形は円形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。壁溝は北壁～西壁～南壁に沿って確認され、幅0.20～0.43m、深さ0.16～0.26mほどである。貯蔵穴は北東コーナー付近に付設され、長径0.95m×短径0.64m×深さ0.32mの平面不整楕円形である。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第120号住居跡（第186・59図）

BI47、BJ47グリッドに位置する。第89号住居跡、第386号土壙と重複し、第70号溝跡、第141・143号井戸跡よりも古く、第118・119号住居跡よりも新しい。

平面形態は方形で、規模は主軸長3.58m×深さ0.08m、主軸方位N－20.5°－Wを測る。埋没状況は明確ではないが、床面には貼床が施されている。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は黄褐色土ブロックを多く含む暗褐色土で造り付けられている。燃焼部は土壙状に掘り込まれ、焼土層が堆積している。天井部は検出されていない。壁溝は北壁・南壁に確認され、幅0.18～0.24m、深さ0.09mほどである。柱穴・貯蔵穴は付設されていない。

遺物は図示し得ないが、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

第121号住居跡（第188・58図）

BF45グリッドに位置し、重複する第151号井戸跡、第70号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は南北長4.28m×東西長2.45m×深さ0.09m、南北軸方位N－38°－Eを測る。覆土の堆積状況から、埋没状況は自然堆積と思われる。

カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示し得ないが、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

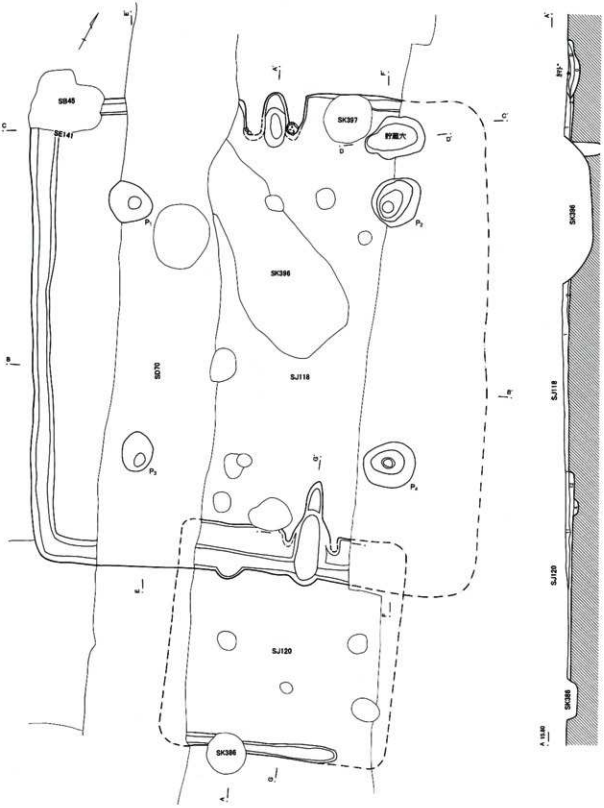
第122号住居跡（第188・58図）

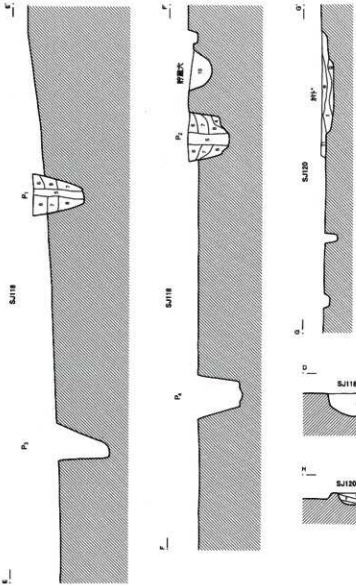
BF45グリッドに位置し、第100号住居跡、第399号土壙、第38・67・70号溝跡と重複する。

平面形態は方形であるが、重複が著しく、規模は不明である。南北軸方位N－36.5°－Eを測る。遺構確認段階には既に床面が削平され、埋没状況は不明である。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は

第187図　F区第118・120号住居跡





第118・120号住居跡

第118号住居跡

1 暗 褐 色 土　黄褐色土粒(2～5mm)若干

2 褐　色　土　床面　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ(2～15mm)多量

3 暗 褐 色 土　黄褐色土粒(2～10mm)多量

4 にぶい黄褐色土　黄褐色土粒(2～10mm)多量

第118号住居跡柱穴

5 暗 褐 色 土　黄褐色土粒・焼土粒(2～5mm)少量

6 暗 褐 色 土　柱掘形充填　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸを他ど混入していない

7 にぶい黄褐色土　柱掘形充填　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ30%混入

8 にぶい黄褐色土　柱掘形充填　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ50%強混入

9 にぶい黄褐色土　柱掘形充填　黄褐色土多量

第118号住居跡貯蔵穴

10 にぶい黄褐色土　焼土粒(2～8mm)少量

第118号住居跡カマド

a 暗 褐 色 土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ(5～30mm)多量
炭化物若干

b 暗 褐 色 土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ・粒(5～15mm)・
灰多量

c 暗 褐 色 土　眼形　焼土粒若干　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ
(5～30mm)多量

d 黒 褐 色 土　袖　黄褐色土粒(2～5mm)少量　付袖

第120号住居跡

11 暗 褐 色 土　黄褐色土粒(2～5mm)・
焼土粒(2～5mm)少量

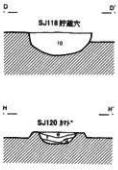
12 にぶい黄褐色土　床面　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ(0.2～2mm)多量

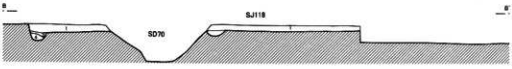
第120号住居跡カマド

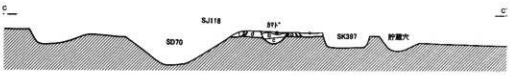
e 黒 褐 色 土　焼土粒(5～20mm)多量　炭化物若干
灰全体混入

f 暗 褐 色 土　人為的堆積　眼形上層　焼土粒
(2mm)・黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ(5～15mm)少量

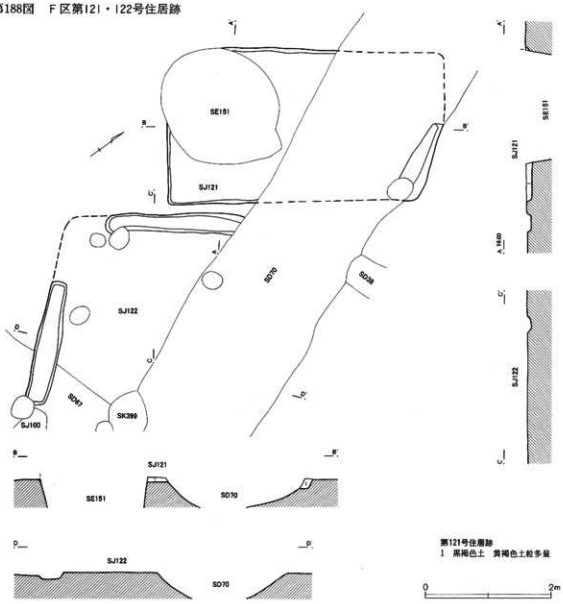
g 褐　色　土　人為的堆積　眼形下層　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ(5～20mm)多量







第188図　F区第121・122号住居跡



西壁・南壁に確認され、幅0.25～0.38m、深さ0.06～0.10mほどである。

遺物は出土していない。

第123号住居跡（第189・60図）

BL47・48グリッドに位置する。第103号溝跡と重複し、第421・422・423・439号土壙よりも古い。

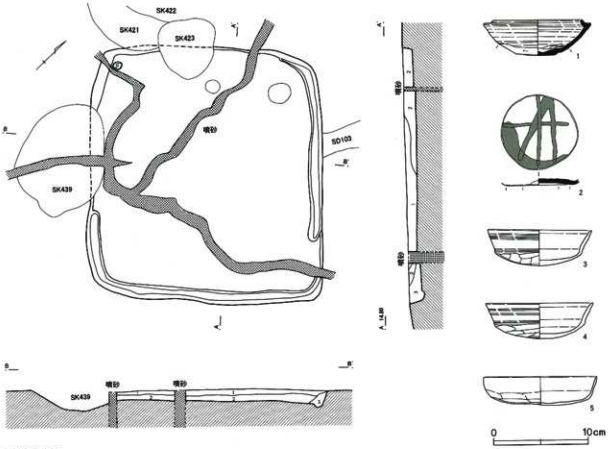
平面形態は長方形で、規模は南北長4.05m×東西長3.70m×深さ0.18m、南北軸方位N－45°－Wを測る。覆土の堆積状況は、自然堆積と捉えられる。住居跡埋没後、大地震に伴う液状化現象による噴砂の影響を受け、北から南へ床面が陥没している。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は

F区第123号住居跡出土遺物観察表（第189図）

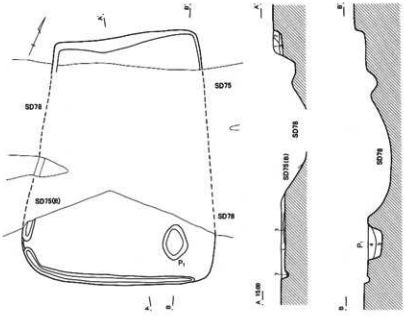
番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	9.5	3.7		WB	A	灰	90	秋間産（胎土分析26）
2	坏		(0.6)	6.7	WB 針	A	灰	20	南比企産 底部周辺ヘラ 火だすき痕
3	坏	10.9	3.8		WBR	B	暗褐	75	
4	坏	11.3	3.6		WBR	B	黒褐	95	
5	坏	(11.8)	3.0		WB	B	にぶい黄橙	60	

第189図　F区第123号住居跡・出土遺物



第123号住居跡
1　褐灰色土　白色ｼﾙﾄ質粒極多量　砂若干
2　褐灰色土　上層より暗　焼土粒・白色ｼﾙﾄ質粒少量　遺物混入
3　褐灰色土　白色ｼﾙﾄ質ﾌﾞﾛｯｸ(10mm)多量

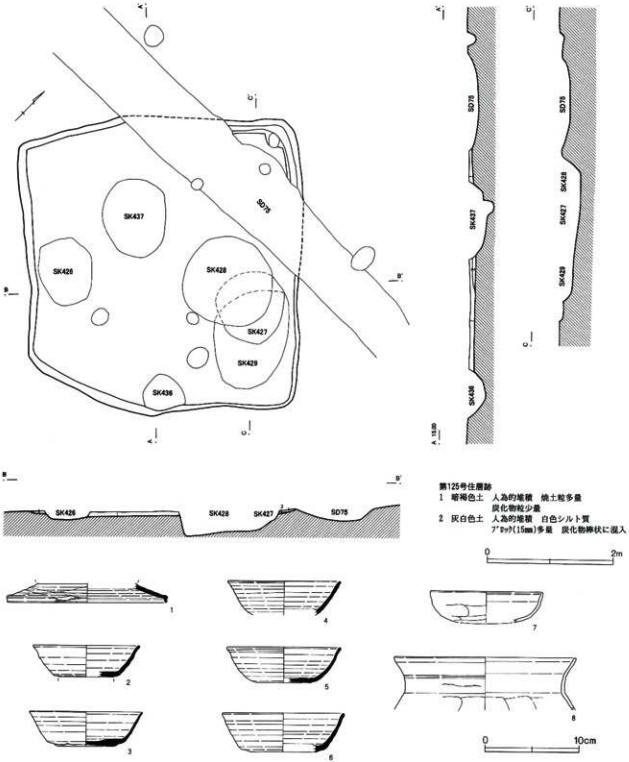
第190図　F区第124号住居跡



第124号住居跡
1　暗灰色土　黄褐色ｼﾙﾄ質粒極多量
　　灰白色ｼﾙﾄ質ﾌﾞﾛｯｸ(10mm)少量
2　暗灰色土　黄褐色ｼﾙﾄ質粒少量
3　灰白色土　白色ｼﾙﾄ質粒・白色ｼﾙﾄ質ﾌﾞﾛｯｸ(10mm)少量

柱穴
4　暗灰色土　黄褐色ｼﾙﾄ質ﾌﾞﾛｯｸ(10mm)多量
　　灰白色ｼﾙﾄ質ﾌﾞﾛｯｸ(10mm)少量
5　灰白色土　黄褐色ｼﾙﾄ質粒多量

第191図　F区第125号住居跡・出土遺物



北壁北東コーナー～東壁、東壁南東コーナー～南壁～西壁南西コーナー付近に巡り、幅0.16～0.22m、深さ0.24～0.26mほどである。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

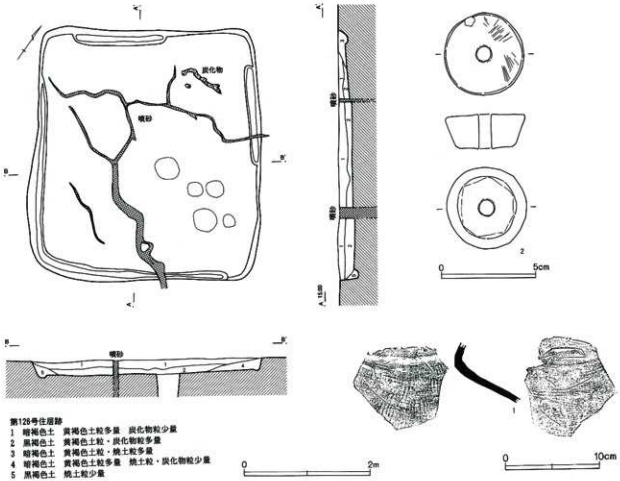
第124号住居跡（第190・60図）

BK48グリッドに位置し、第75B・78号溝跡と重複する。

F区第125号住居跡出土遺物観察表（第191図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	壷	(16.9)	(2.0)		WB 針	A	灰	10	南比企産 自然釉付着
2	坏	(11.1)	3.3	(5.9)	WBR 針	A	灰	10	南比企産
3	坏	(12.0)	3.7	(6.0)	WB 片	C	灰白	30	底部全面ヘラ
4	坏	(11.9)	(3.5)		WB 針	A	灰	50	南比企産
5	坏	(12.0)	3.7	(5.8)	WBR 針	C	にぶい黄橙	25	南比企産 底部糸切離し
6	坏	(12.8)	4.1	(6.9)	WBR 針	B	灰白	25	南比企産
7	坏	(11.9)	(3.2)		WBR	B	にぶい黄橙	10	
8	甕	(19.2)	(5.5)		WBR	B	橙	5	

第192図　F区第126号住居跡・出土遺物



第126号住居跡
1　暗褐色土　黄褐色土粒多量　炭化物粒少量
2　黒褐色土　黄褐色土粒・炭化物粒多量
3　暗褐色土　黄褐色土粒・焼土粒多量
4　暗褐色土　黄褐色土粒多量　焼土粒・炭化物粒少量
5　黒褐色土　焼土粒少量

F区第126号住居跡出土遺物観察表（第192図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	甕				WBR	B	灰		末野産？
2	石製紡錘車								上径4.2×下径3.1×孔径0.6×厚さ1.8×重さ49.8g

平面形態は長方形で、規模は南北長3.92m×東西長3.06m×深さ0.13m、南北軸方位N−24.5°−Wを測る。埋没状況は明確ではないが、床面はきわめて明るい褐灰色を呈している。

カマド・貯蔵穴は検出されていない。柱穴は南東コーナーに1本のみみられる。壁溝は西壁の一部および南壁に確認され、幅0.11〜0.16m、深さ0.09〜0.11mほどである。

遺物は出土していない。

第125号住居跡（第191・60図）

BK46・47、BL46・47グリッドに位置し、重複する第426・427・428・429・436・437号土壙、第75B号溝跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は東西長4.68m×南北長4.49m×深さ0.08m、南北軸方位N－42°－Eを測る。覆土の堆積状況は明確ではないが、人為的に埋め戻されているようである。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は北西コーナーのみ検出され、幅0.22m、深さ0.12mほどである。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土し、中世陶器も混入している。

第126号住居跡（第192・60図）

BL46、BM46グリッドに位置する。

平面形態は方形で、規模は南北長3.92m×東西長3.68m×深さ0.26m、南北軸方位N－34°－Wを測る。埋没状況は人為的に埋め戻された可能性がある。

カマド・柱穴・貯蔵穴は確認されていない。壁溝は北壁・東壁の一部および西壁～南壁に検出され、幅0.09～0.27m、深さ0.14～0.30mほどである。北東半には炭化物がみられるが、焼失住居の可能性は考えられず、性格は不明である。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第127号住居跡（第193・60・61図）

BO46、BP46グリッドに位置し、第414・415・417号土壙、第91号溝跡と重複する。

大地震に伴う液状化現象による噴砂の影響で、住居跡は水平方向に約0.15m、垂直方向に約0.05mの変形が認められる。確認段階で既に床面まで削平されており、壁溝によって方形の平面形態が把握された。壁溝は二重に巡り、西壁・北壁・東壁が拡張されている。拡張前の規模は主軸長5.05m、拡張後は主軸長5.65m×深さ0.08mを測り、東壁は0.62mほど拡げられている。主軸方位はN－53.5°－Eを向いている。

カマドは拡張前の残痕が北壁中央に確認されているが、拡張後のカマドは見つかっていない。柱穴は3本検出され、拡張後の住居跡に伴うものである。壁溝は幅0.08～0.29m、深さ0.05～0.10mほどである。貯蔵穴は認められない。

遺物は図示し得ないが、土師器甕・坏片が出土している。

第128号住居跡（第194・61図）

BP46・47、BQ46・47グリッドに位置し、第83・98号溝跡と重複する。

平面形態は方形である。壁溝が二重に巡り、北壁が拡張されている。拡張前の規模は主軸長6.34m×南北幅6.21m、主軸方位N－45°－E、拡張後は主軸長6.80m×幅6.34m×深さ0.10m、主軸方位N－45°－Wを測る。大地震に伴う液状化現象による噴砂の影響を受け、西壁付近で床面が陥没している。

カマドは拡張前後それぞれに設置されている。北壁中央のカマドAが拡張後、東壁中央のカマドBは拡張前に伴うものである。拡張に際し、カマドBは取り壊されている。カマドAも残存状態は悪く、遺構確認段階で火床面が露呈している。

柱穴は拡張後の住居跡に伴う4本が検出され、柱抜き取り痕が確認できる。柱掘形は円形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。壁溝は拡張前は全周し、拡張後は北壁西半には巡っていない。幅0.15～0.25m、深さ0.19～0.31mほどである。貯蔵穴も拡張後に付設され、カマド東側に位置している。長径0.72m×短径0.50m×深さ0.22mの平面隅丸長方形である。

遺物はカマドと住居中央付近に集中し、図示したほかに須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

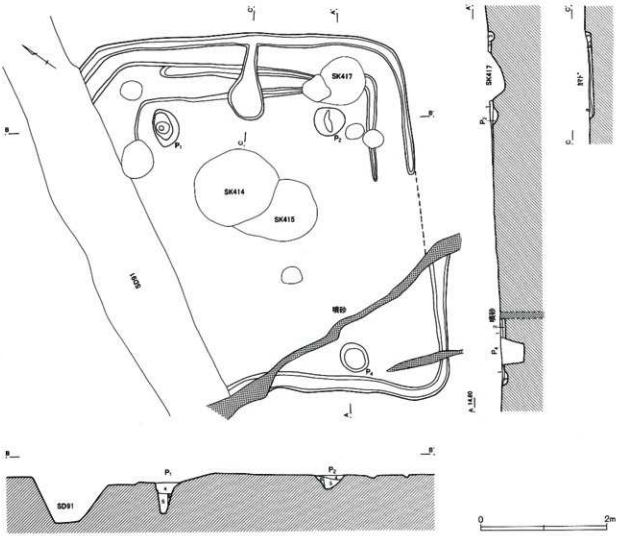
第129号住居跡（第195・61図）

BQ45・46グリッドに位置する。

大地震に伴う液状化現象による噴砂の影響を受け、北西半の床面が陥没している。平面形態は方形で、規模は主軸長5.28m×東西幅6.11m×深さ0.08m、主軸方位N－43.5°－Wを測る。

カマドは北壁東よりに設置され、袖部は造り付けら

第193図　F区第127号住居跡



第127号住居跡
1　にぶい黄褐色土　黄褐色土粒(2～5mm)少量
2　にぶい黄褐色土　床面　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ(5～30mm)多量　砂混入
3　灰黄褐色土　黄褐色土粒(2～8mm)多量
柱穴
4　にぶい黄褐色土　柱をぬくためにはられた後の覆土　炭化物粒(2～8mm)少量
5　にぶい黄褐色土　黄褐色土粒(2～10mm)多量
6　にぶい黄褐色土　柱掘形充填　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ30%混入

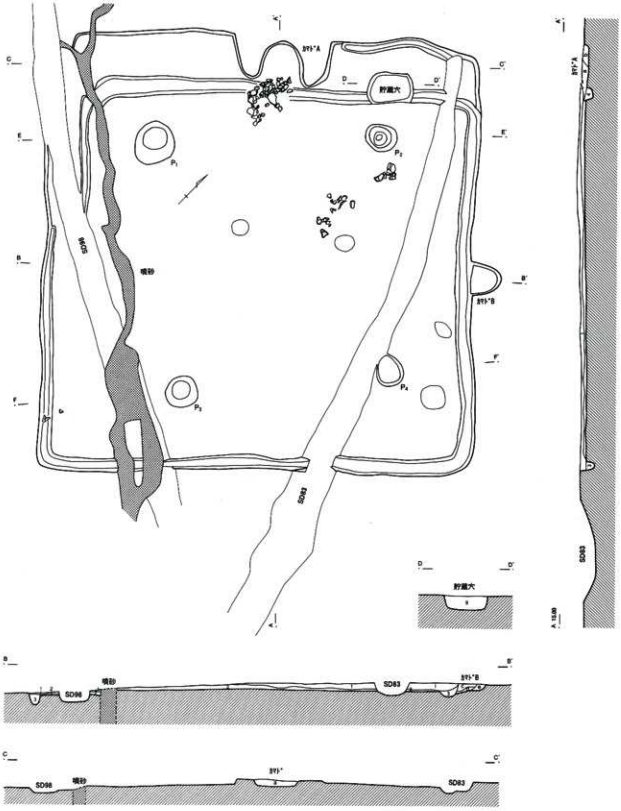
カマド
a　明褐色土　内側の壁溝にともなうｶﾏﾄﾞ　黄褐色土粒(2～8mm)多量
焼土粒(2～10mm)少量　使われなくなった後に床面が貼られた
b　にぶい黄褐色土　掘形　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ(5～10mm)少量

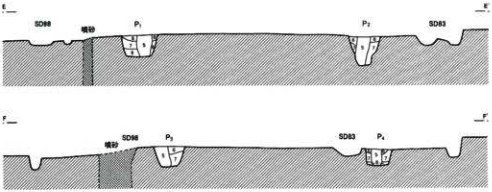
F区第128号住居跡出土遺物観察表（第194図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	10.9	3.5		WBR	B	橙	80	カマドNo 5
2	坏	(11.1)	(2.8)		BR	B	浅黄橙	10	
3	鉢	(33.8)	(15.8)		WBR	C	暗褐	20	
4	壺	(20.8)	(9.9)		B	B	にぶい黄褐	10	Na11
5	甕	21.1	(16.2)		BR	B	橙	30	カマドNo 4
6	甕	(19.2)	(27.5)		WB	B	橙	30	カマド
7	甕	(19.8)	(40.6)		WBR	B	橙	60	カマドNo 1
8	台付甕		(4.5)	(9.0)	WBR	B	にぶい橙	5	

れている。天井部は崩落して灰層上面に重なり、壁面は被熱のため赤色焼土化している。カマドC層は、煙道部の掘形を埋め戻した層で、煙道成形後に袖部を造り付けている。

第194図　F区第128号住居跡・出土遺物

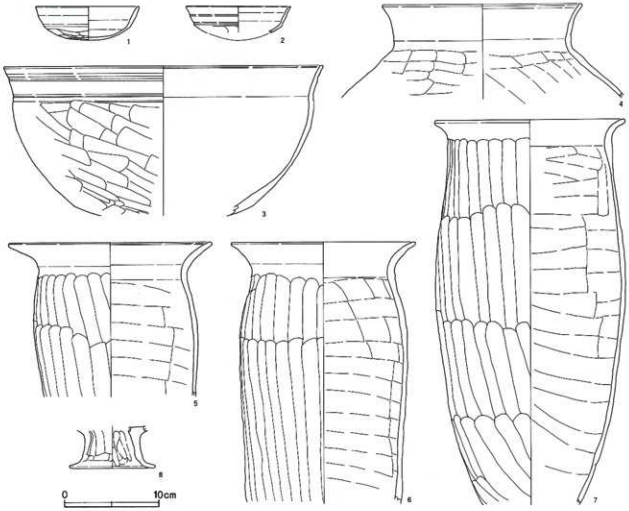




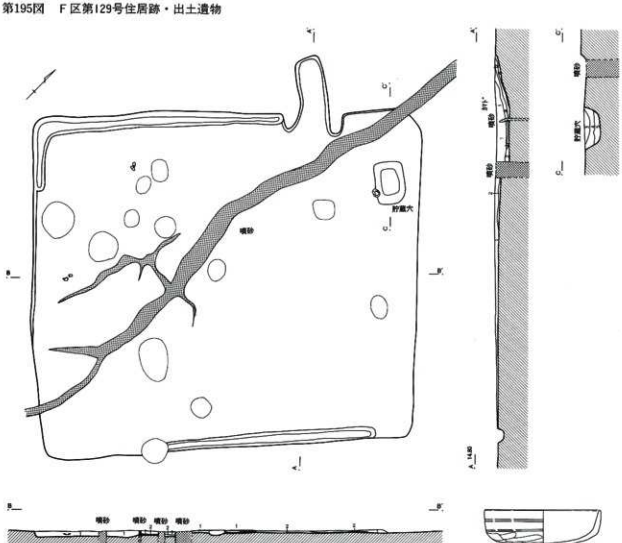
第128号住居跡
1 褐 色 土 黄褐色土粒(2～5mm)少量
2 黄 褐 色 土 床面 黄褐色土ブロック(5～30mm)多量
3 にぶ黄褐色土 黄褐色土粒 (2～5mm)多量
4 にぶ黄褐色土 黄褐色土ブロック(5～10mm)多量
柱穴
5 暗 褐 色 土 焼土粒・黄褐色土粒(2～5mm)少量
6 にぶ黄褐色土 柱痕形充填 黄褐色土ブロック若干
7 灰黄褐色土 柱痕形充填 黄褐色土ブロック50%混入
8 にぶ黄褐色土 黄褐色土ブロック70%強混入

貯蔵穴
9 にぶ黄褐色土 黄褐色土粒(2～10mm)多量 住居拡張された際のもの
カマドA
a 暗 褐 色 土 燃焼部 焼土粒・ブロック多量
b 暗 褐 色 土 崩形 黄褐色土ブロック(5～10mm)少量
カマドB
c 灰黄褐色土 黄褐色土粒・焼土粒(2～5mm)若干
d 灰黄褐色土 焼土粒(2～8mm)多量
e にぶ黄褐色土 崩形 黄褐色土ブロック(5～10mm)少量

0 2m



第195図　F区第129号住居跡・出土遺物



F区第129号住居跡出土遺物観察表（第195図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	12.0	3.9		BR	B	にぶい黄橙	100	貯蔵穴
2	長頸壺	9.0	(2.7)		WB	A	灰白		末野産　内外面自然釉付着

柱穴は検出されていない。壁溝は北壁カマド西側～西壁北西コーナーおよび南壁中央付近を巡り、幅0.14～0.25m、深さ0.10mほどである。貯蔵穴はカマド東側に付設され、長径0.67m×短径0.48m×深さ0.24mの平面長方形である。

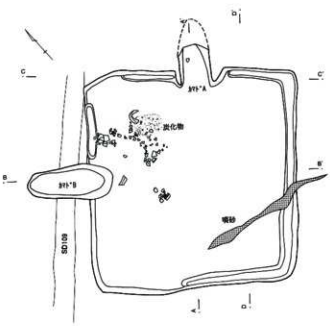
遺物は図示したほかに、土師器坏片が出土している。

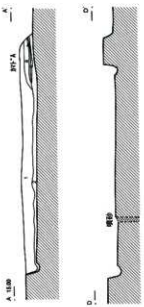
第130号住居跡（第196・56図）

BL43・44、BM43・44グリッドに位置し、重複する第109号溝跡よりも古い。

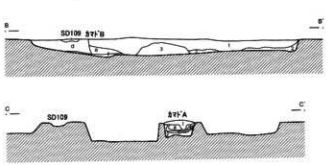
平面形態は方形で、規模は主軸長3.43m×東西幅3.33m×深さ0.18m、主軸方位N－40.5°－Eを測る。大地震に伴う液状化現象による噴砂の影響を受け、南

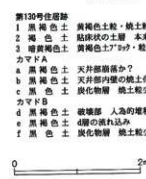
第196図　F区第130号住居跡・出土遺物

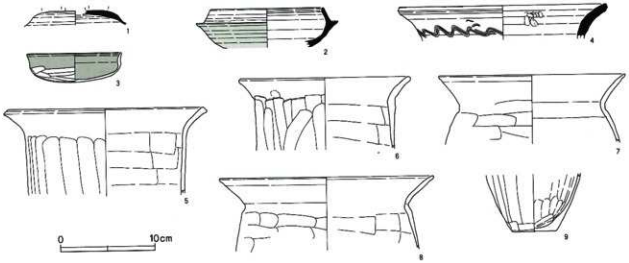




第130号住居跡
1　黒褐色土　黄褐色土粒・焼土粒・炭化物粒少量
2　褐色土　貼床状の土層　本来の床面は、1層と2層の間
3　暗黄褐色土　黄褐色土ブロック・粒多量　ブロック状　人為的堆積か？
カマドA
a　黒褐色土　天井部崩落か？
b　黒褐色土　天井部内壁の焼土化部の崩れ
c　黒色土　炭化物層　焼土粒少量
カマドB
d　黒褐色土　破壊部　人為的堆積
e　黒褐色土　d層の流れ込み
f　黒色土　炭化物層　焼土粒少量　カマド残痕







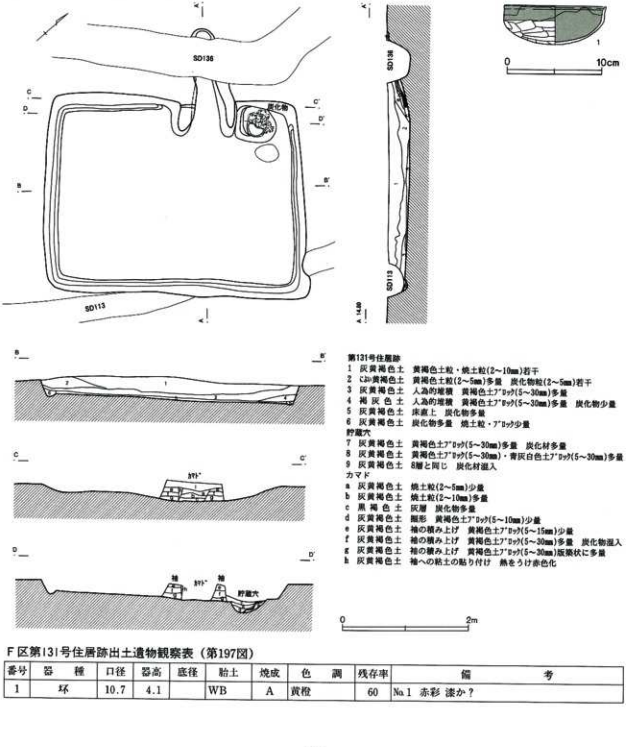
側が垂直方向に約0.03mほど沈降している。埋没状況は自然堆積で、床面には貼床が施されている。北西コーナー付近には土器片や炭化物が集中している。

カマドは西壁中央のカマドBを破棄後、北壁中央のカマドAが造り替えられている。カマドAの袖部は造り付けられ、燃焼部には炭化物層が堆積している。天

F区第130号住居跡出土遺物観察表（第196図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	蓋		(1.5)		WB針	A	灰	20	南比企産
2	坏	(11.9)	(4.1)		WB	A	灰白	10	産地不明（関東）　自然釉付着
3	坏	(9.9)	3.1		WB	A	橙	60	赤彩
4	甕	(22.0)	(3.6)		WB	A	灰		末野産
5	甕	(20.6)	(9.2)		WBR	B	暗褐	20	
6	甕	17.8	(7.6)		WBR	B	暗褐	15	№10・13
7	甕	19.7	(7.2)		WBR	B	橙	20	
8	甕	(22.6)	(7.7)		WB	B	橙	10	
9	甕		(6.0)	(6.5)	WBR	B	暗褐	10	№6・12

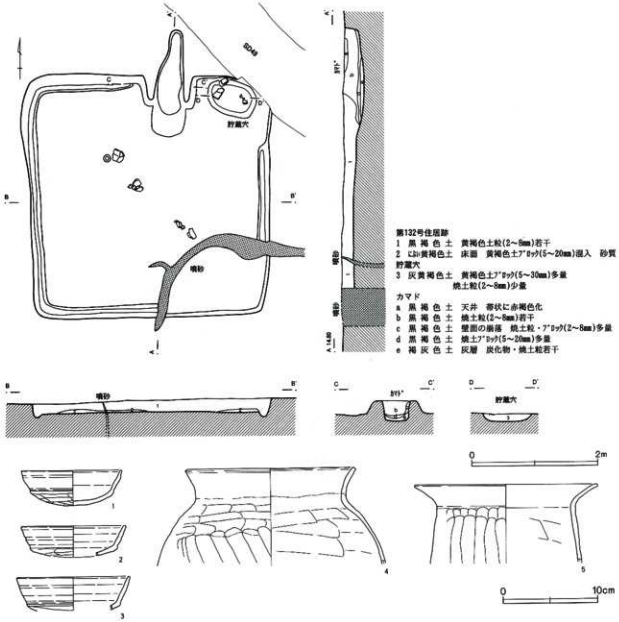
第197図　F区第131号住居跡・出土遺物



F区第131号住居跡出土遺物観察表（第197図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	10.7	4.1		WB	A	黄橙	60	№1　赤彩　漆か？

第198図　F区第132号住居跡・出土遺物



F区第132号住居跡出土遺物観察表（第198図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	10.7	3.7		WBR	B	橙	95	No.5
2	坏	(11.0)	3.1		WBR	B	橙	25	カマド
3	坏	(12.0)	(3.5)		WBR	A	灰黄褐	25	
4	甕	(17.6)	(10.2)		WBR	B	橙	25	No.1
5	甕	(19.2)	(8.3)		WBR	B	暗褐	20	

井部・壁は崩落している。壁溝は北壁～東壁～南壁中央および西壁北半に巡り、幅0.14～0.30m、深さ0.18～0.22mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

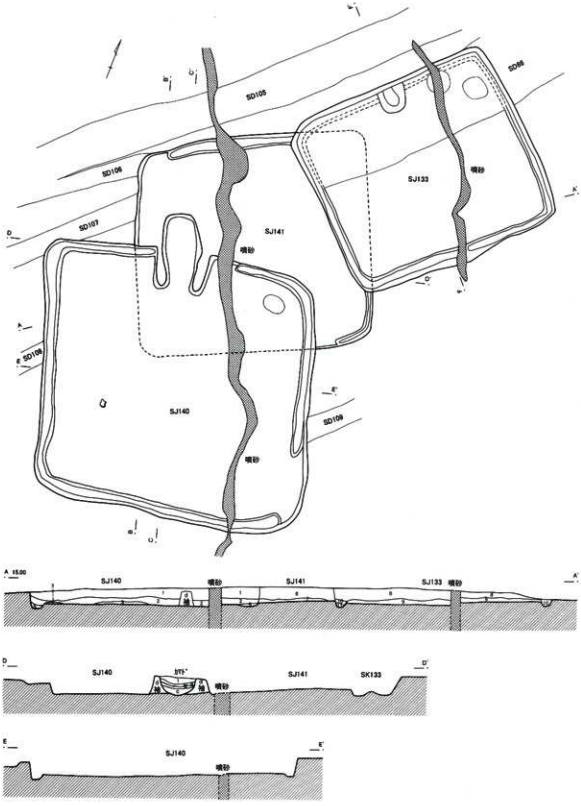
遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

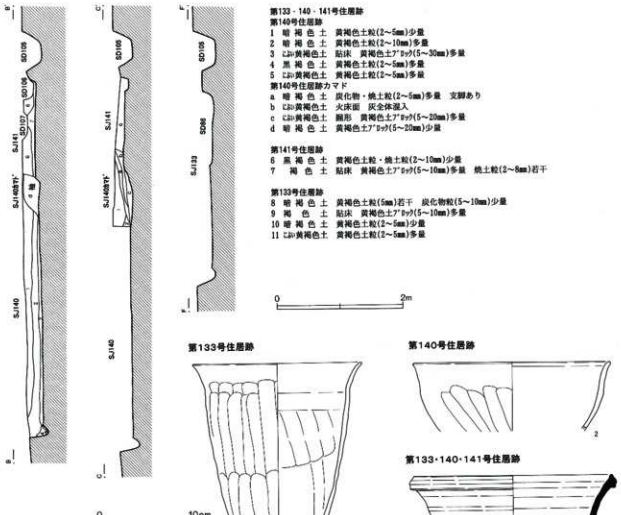
第131号住居跡（第197・57図）

BP45グリッドに位置し、第92・113・136号溝跡と重複する。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.08m×南北幅

第199図　F区第133・140・141号住居跡・出土遺物





F区第133・140・141号住居跡出土遺物観察表（第199図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甑	(17.8)	(12.0)		WBR	B	橙	30	SJ133
2	鉢	(20.6)	(7.3)		WB	B	にぶい黄橙	10	SJ140 №1
3	甕	(21.0)	(5.6)		WBR	A	灰白		SJ133・140・141 末野産

4.12m×深さ0.24m、主軸方位N－50.5°－Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と捉えられる。

カマドは西壁中央に設置されている。天井部とカマド北半部が崩落しており、住居廃棄段階にカマドも壊されたものと思われる。袖部から煙道部にかかる壁面は、被熱による焼土化が著しい。カマド袖部等の断面観察から構築手順を復元すると、住居跡床面成形後に西壁中央際に版築状にカマド構築土を積み上げ→袖部分を残して燃焼部・煙道部の掘り込み→袖部の整形→天井部の架設と想定される。また南側袖部には、整形段階で再度粘土を貼付している様子も看取される。

柱穴は検出されていない。壁溝は北西コーナー付近を除き全周し、幅0.14～0.27m、深さ0.26～0.30mほどである。貯蔵穴はカマド北側の北西コーナー付近に付設され、長径0.64m×短径0.54m×深さ0.16mの平面不整方形である。覆土には板状の炭化物が多くみられ、貯蔵穴の蓋材の可能性もある。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、編物石が